Canon

EOS Kiss Digital

使用説明書

Canon EOS Kiss Digital

使用説明書

J

キヤノン製品のお買い上げありがとうございます。

EOS Kiss DIGITALは、優れた機動性を備えた高性能デジタルAF一眼レフカメラです。本機は、有効画素数約630万・高精細CMOSセンサー搭載、全EFレンズ群とEF-Sレンズ対応、いつでもすぐに撮影できる画期的な機動性、全自動撮影から高度な応用撮影にまで最適対応する豊富な撮影機能、ダイレクトプリント機能など、さまざまな特長を備えています。
なお、記録媒体には、コンパクトフラッシュカード(CFカード)を使用します。

ご使用になる前に、カメラを手にとりながら、この使用説明書をお読みになって理解を深め、操作に慣れた上で正しくお使いください。

試し撮りと撮影内容の補償について

必ず事前に試し撮りをし、画像が正常に記録されていることを確認してください。
万一、カメラ(本機)や記録媒体(CFカード)の不具合により、撮影画像の記録やコンピューターへの読み込みがされなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

あなたがカメラ(本機)で記録した権利者のいる被写体の画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

- CanonおよびEOSは、キヤノン株式会社の商標です。
- Adobe、およびPhotoshopは、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の商標です。
- CompactFlash(コンパクトフラッシュ)は、SanDisk Corporationの商標です。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国および他の国における商標または登録商標です。
- Macintoshは、米国および他の国で登録された米国アップルコンピュータ社の商標です。

* このデジタルカメラは、Exif(イグジフ)2.2(愛称「Exif Print」)に対応しています。Exif Printは、デジタルカメラとプリンターの連携を強化した規格です。Exif Print対応のプリンターと連携することで、撮影時のカメラ情報を活かし、それを最適化して、よりきれいなプリント出力結果を得ることができます。

同梱品の確認

初めてご使用になる前に、以下のものがすべてそろっているか確認してください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。

- □ EOS Kiss DIGITAL（イオス キス デジタル）／カメラ本体（アイカップ、ボディキャップ付き、日付／時計機能用リチウム電池内蔵）
- □ EF-S 18-55mm F3.5-5.6 USM／レンズ（レンズキャップ、ダストキャップ付き）　＊レンズ付きキットをお買い求めの場合
- □ バッテリーパック BP-511（保護カバー付き）
- □ バッテリーチャージャー CB-5L
- □ バッテリーチャージャー用電源コード
- □ インターフェースケーブル IFC-300PCU
- □ ビデオケーブル VC-100
- □ ネックストラップ EW-100DBII（アイピースカバー付き）

- □ EOS DIGITAL Solution Disk（イオス デジタル ソリューション ディスク）（CD-ROM）
- □ Adobe Photoshop Elements Disk（アドビ フォトショップ エレメンツ ディスク）（CD-ROM）

- □ ポケットガイド
  すぐに撮影したいかたは、このポケットガイドをご覧ください。
- □ EOS Kiss DIGITAL使用説明書（本書）
- □ ソフトウェアの正しいインストールのしかた
  ソフトウェアのインストール方法と、ソフトウェアの内容を紹介しています。
- □ EOS Kiss DIGITALソフトウェア使用説明書
  撮影した画像のコンピューターへの取り込み、RAW画像の現像処理・画像処理の方法について説明しています。
- □ バッテリーパック BP-511使用説明書

- □ お客様ご相談窓口一覧
- □ 保証書

※ 同梱品は、なくさないようご注意ください。

※ 撮影画像を記録する**CFカードは同梱されていません**ので、別途ご購入ください。なお、CFカードはキヤノン製CFカードのご使用をおすすめします。

目　次

はじめに

1 使用前の準備と基本操作.......15

2 カメラまかせの全自動撮影.....35

3 撮影画像に関する設定 45

4 撮影目的にあわせた応用撮影 ..59

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに最寄りのお客様相談窓口にご相談ください。また、水滴がついたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気を発生させる装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因となることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーンなどにゴミがついているときは、市販のブロアーブラシで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りのお客様相談窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因となることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは結露の発生をふせぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因となりますので、カメラをお使いにならないでください。レンズ、CFカード、バッテリーをカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラをお使いください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラからバッテリーを取り外し、風通しがよく、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りのお客様相談窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

表示パネルと液晶モニターについて

- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

CFカードについて

- CFカードは精密にできています。落としたり振動を与えたりしないでください。CFカードに記録されている画像が壊れる原因となります。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや静電気の発生しやすい所で保管、使用しないでください。CFカードに記録されている画像データが消えてしまうことがあります。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。CFカードが変形して使用できなくなります。
- CFカードに液体をこぼさないでください。
- 大切な画像データを守るため、CFカードは必ずケースなどに入れて保管してください。
- キヤノン製以外のCFカードを使用すると、画像の記録・再生ができないものがあります。このような場合は、キヤノン製CFカードのご使用をおすすめします。
- 曲げたり、強い力や衝撃を与えないでください。
- 温度の高い所、ほこりや湿気の多い所に保管しないでください。

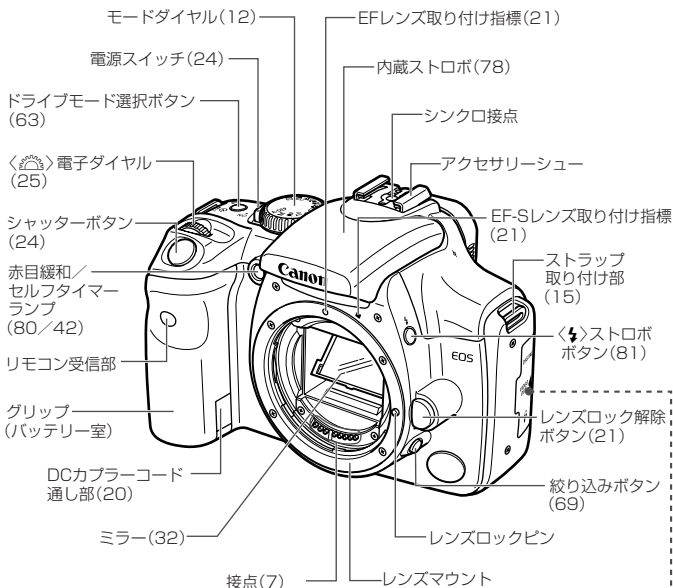
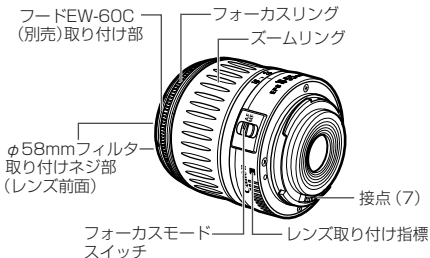
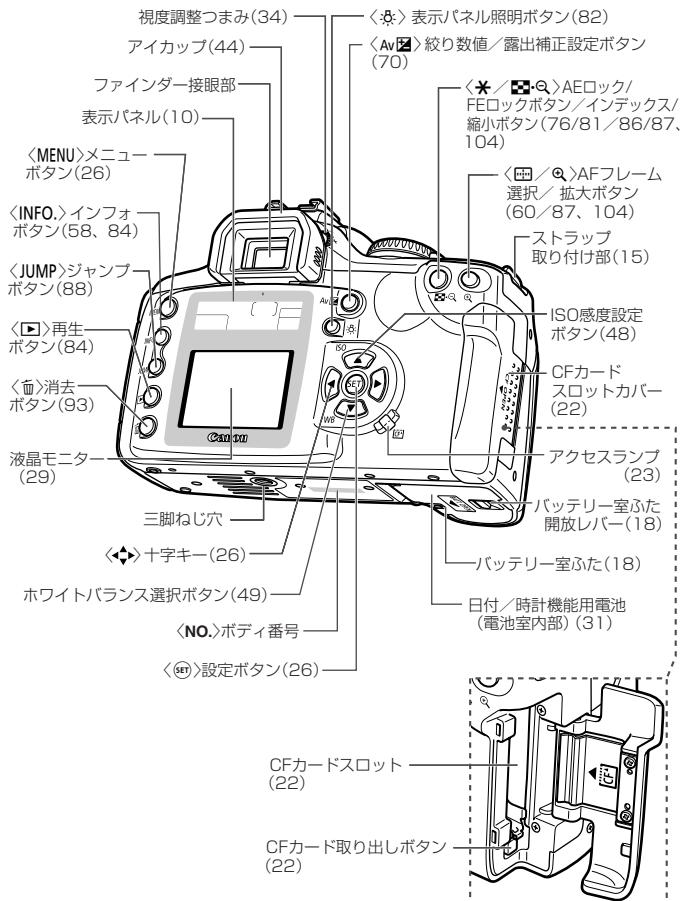
レンズの接点について

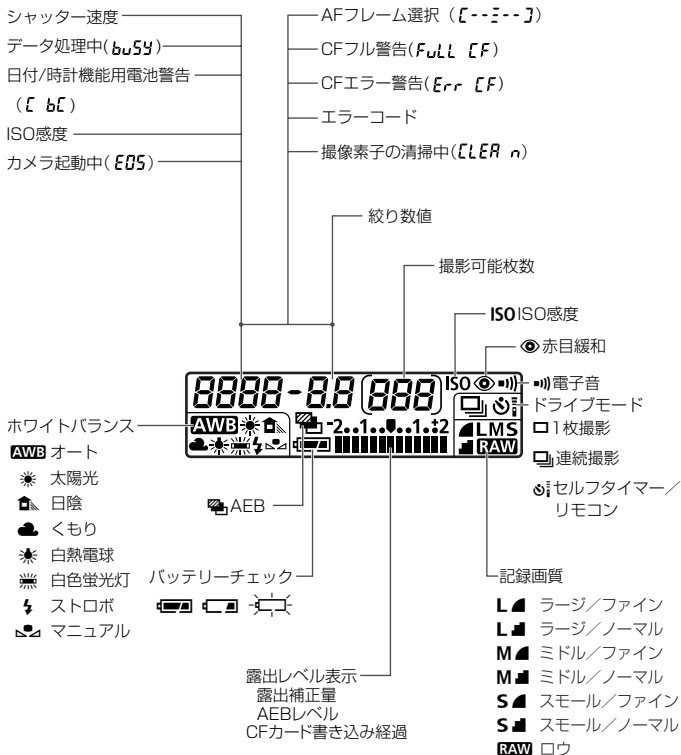
レンズを外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。

妨害電波自主規制について

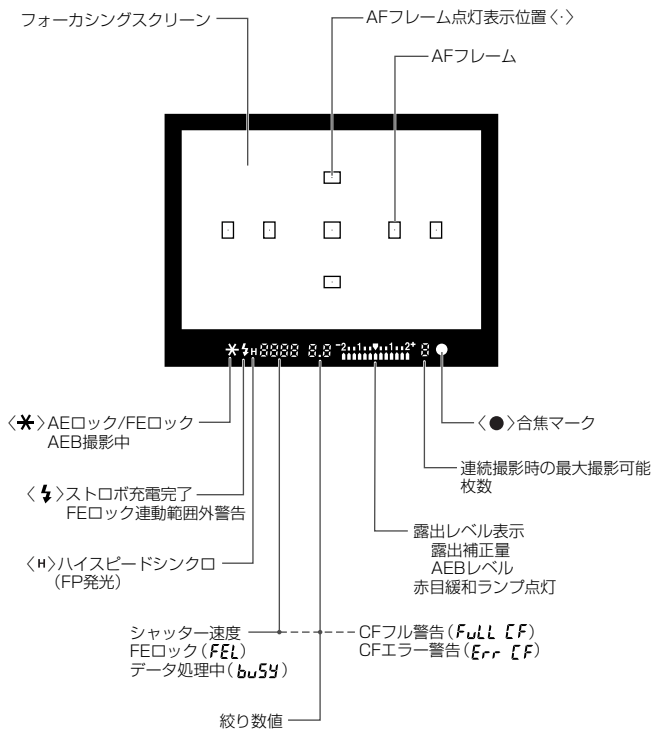
このカメラ(本機)は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準にもとづくクラスB情報技術装置です。このカメラ(本機)は、家庭環境で使用することを目的としていますが、このカメラ(本機)をラジオやテレビジョン受信機に近接して使用すると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書(本書)に従って正しい取り扱いをしてください。

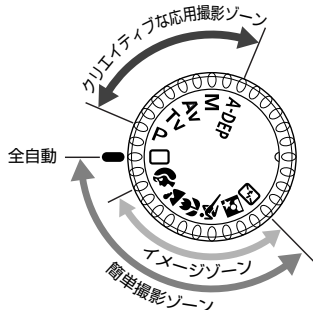
各部の名称

（＊＊）の＊＊部は参照ページを示しています。

〈CE〉製品についているこのマークは、EC指令への適合宣言マークです。

表示パネル

表示は、状況に応じた部分のみ表示されます。

ファインダー内表示

フォーカシングスクリーン
AFフレーム点灯表示位置〈·〉
AFフレーム
〈✱〉AEロック/FEロック
AEB撮影中
〈●〉合焦マーク
連続撮影時の最大撮影可能枚数
〈ϟ〉ストロボ充電完了
FEロック連動範囲外警告
露出レベル表示
露出補正量
AEBレベル
赤目緩和ランプ点灯
〈H〉ハイスピードシンクロ
（FP発光）
シャッター速度
FEロック（FEL）
データ処理中（buSY）
CFフル警告（FuLL CF）
CFエラー警告（Err CF）
絞り数値

モードダイヤル

モードダイヤルは2つの機能ゾーンに分けられています。

① 簡単撮影ゾーン

● 基本操作はシャッターボタンを押すだけです。

□:**全自動**(36)
カメラまかせの全自動撮影ができます。

イメージゾーン

被写体別にカメラまかせの全自動撮影ができます。

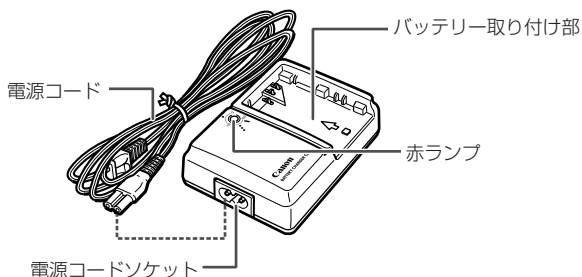
- :ポートレート(38)
- :風景(38)
- :クローズアップ(38)
- :スポーツ(39)
- :夜景ポートレート(39)
- :ストロボ発光禁止(39)

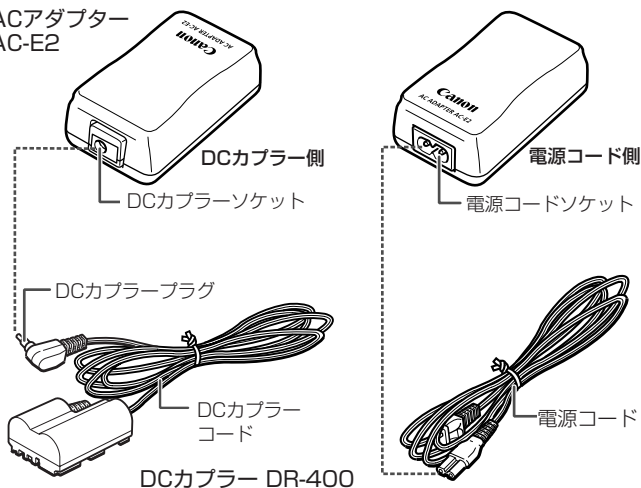
② クリエイティブな応用撮影ゾーン

思いどおりのさまざまな撮影ができます。

- **P** :プログラムAE(64)
- **Tv** :シャッター優先AE(66)
- **Av** :絞り優先AE(68)
- **M** :マニュアル露出(70)
- **A-DEP** :自動深度優先AE(72)

バッテリーチャージャーCB-5L

バッテリーパックの充電器です(16)。

ACアダプターキットACK-E2(別売)

家庭用電源でカメラを動かすときに使います(20)。

本使用説明書上のお断り

● 本文中の〈〉は電子ダイヤルを示しています。

● 本文中の〈▲▼〉や〈◀▶〉は十字キーのボタンを示しています。〈▲〉〈▼〉〈◀〉〈▶〉はそれぞれ十字キーの上、下、左、右のボタンを示しています。

● 本文中の〈SET〉は設定ボタンを示しています。メニュー機能の設定などに使用します。

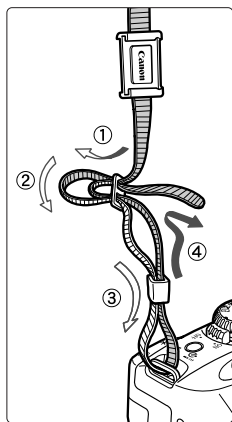
● 本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンやダイヤル、マークなど、カメラに表示されている絵文字を使用しています。
● （＊＊）の＊＊部は参照ページを示しています。
● 本書では、EF-S18-55mm F3.5-5.6 USMレンズを取り付けた状態で説明しています。
● メニュー機能は、初期状態を前提に説明しています。
● MENU は、メニュー機能で設定変更できることを示しています。
● （4）／（6）／（16）はボタンから指を離しても、その状態がタイマーによりそれぞれ4秒間／6秒間／16秒間保持されることを示しています。
● 本文中の以下のマークがついた欄は、それぞれ次のような内容になっています。

 :撮影に不都合が生じるおそれのある注意事項が書かれています。

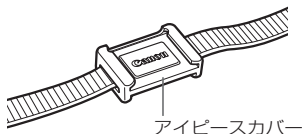
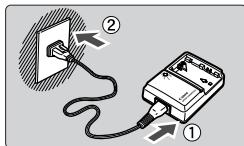
 :基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書かれています。

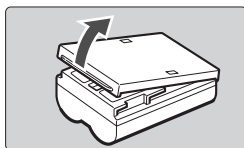
1

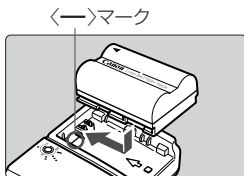
使用前の準備と基本操作

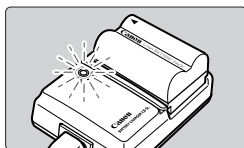
この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、操作の基本について説明します。

ストラップ(吊りひも)の取り付け方

ストラップの先をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップについている止め具の内側を通します。ストラップを引っ張っても止め具の部分がゆるまないことを確認してください。

● ストラップにはアイピースカバーがついています。(44)

バッテリーを充電する

1 電源コードを接続する

- 電源コードをチャージャーに接続します。
- プラグをコンセントに差し込みます。

2 保護カバーを外す

- バッテリーをカメラから取り出したときは、ショート防止のため必ずカバーを取り付けてください。

3 バッテリーを取り付ける

- 〈—〉マークにバッテリーの先端をあわせ、押し付けながら、スライドさせて取り付けます。
- 取り外しは逆の手順で行います。

4 充電する

➡ バッテリーを取り付けると自動的に充電が始まり、赤ランプが点滅します。

➡ **使い切ったバッテリーの充電に要する時間は、約90分です。**

充電状態	赤ランプ
0～50%	1回／秒：点滅
50～75%	2回／秒：点滅
75～90%	3回／秒：点滅
90%以上	点灯

＊ 赤ランプの周りに印刷されている数字と点は、上の表を図式化したものです。

- バッテリーパックBP-511、BP-512以外は充電しないでください。
- バッテリーを長期間カメラに入れたままにしておくと、カメラを使用しなくても微少の電流が流れて過放電になり、バッテリー寿命短縮の原因となります。
  カメラを使用しないときは、バッテリーをカメラから取り出し、ショート防止用の保護カバーを取り付けて保管してください。カメラを使用するときは、必ずバッテリーを充電してからご使用ください。

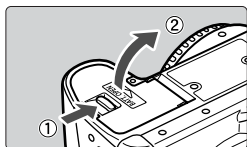
- **赤ランプが点灯してから、続けて約1時間充電を続けると、フル充電にすることができます。**
- 充電が終わったら、バッテリーを外し、電源コードをコンセントから抜いてください。
- 充電時間は、周囲の温度やバッテリーの充電状態によって異なります。
- バッテリーは0℃～40℃の範囲で使用できますが、性能を十分に発揮させるためには10℃～30℃の範囲で使用することをおすすめします。スキー場などの低温下ではバッテリーの性能が一時的に低下し、使用時間が短くなる場合があります。
- 規定の充電をしたにもかかわらず、著しく使用できる時間が低下したときは、寿命と考えられます。新しいバッテリーをお買い求めください。

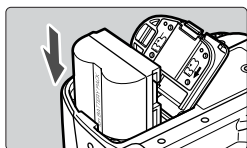
- この製品には、リチウムイオン電池を使用しています。
- この電池はリサイクル可能な貴重な資源です。
- この電池の回収、リサイクルについては、下記のキヤノンホームページで確認できます。
  キヤノンサポートページ：canon.jp/support
- 交換後不要になった電池は、ショートによる発煙、発火の恐れがありますので、端子を絶縁するためにテープを貼るか、個別にポリ袋に入れてリサイクル協力店にある充電式電池回収BOXに入れてください。
- リサイクル協力店のお問い合わせは、以下へお願いします。
  ・製品、リチウムイオン電池をご購入いただいた販売店
  ・(社)電池工業会 小形二次電池再資源化推進センター及び充電式電池リサイクル協力店くらぶ事務局*
  *(社)電池工業会 電話番号 03-3434-0261

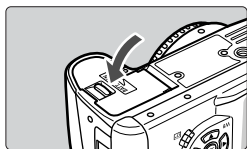
リサイクル時のご注意：電池を分解しないでください。

バッテリーを入れる／取り出す

入れ方

充電したバッテリーパックBP-511をカメラに入れます。

1 ふたを開ける

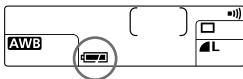
● レバーを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開けます。

2 バッテリーを入れる

● バッテリーの接点を下にして入れてください。
● ロック位置までしっかりと入れてください。

3 ふたを閉じる

● 「カチッ」と音がするまで、ふたを押します。

 バッテリーパックBP-512も使用できます。

バッテリーチェックについて

バッテリーの残量は、電源スイッチを〈ON〉にしたとき(24)3段階で表示されます。

- ：バッテリーの容量は十分です。
- ：残量が少なくなっています。
- ：バッテリーを充電してください。

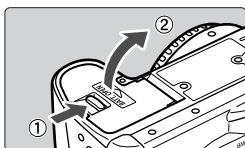
撮影可能枚数の目安

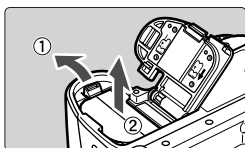
[枚]

温　度	撮影条件	
	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影
常温(＋20℃)	600	400
低温(0℃)	450	350

- 撮影枚数は、当社試験基準によります。
(フル充電のバッテリー、EF-S18-55mm F3.5-5.6 USM、撮影画像の確認[入]、撮影画像の確認時間[2秒]、記録画質[Large ◢]で撮影・記録)

- 実際の撮影条件との違いにより、撮影枚数は表記数値よりも少なくなる場合があります。
- 液晶モニターを頻繁に使用すると、撮影枚数は少なくなります。
- シャッターボタン半押し状態を長く続けたり、AFのみ行って撮影しないという操作を頻繁に行うと、撮影枚数が少なくなります。

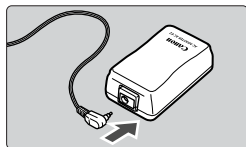
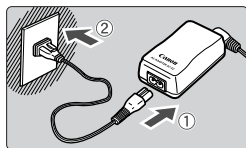
取り出し方

1 ふたを開ける

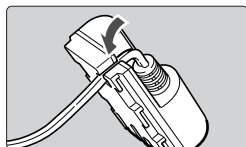
- レバーを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開けます。

2 バッテリーを取り出す

- バッテリーロックレバーを矢印方向にスライドさせて、ロックを外し、バッテリーを取り出します。

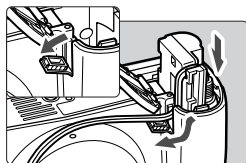
家庭用電源を使用する

ACアダプターキットACK-E2(別売)を使うと、家庭用電源を使用してバッテリーの残量を気にせずにカメラを使うことができます。

1 DCカプラーを接続する

- DCカプラーのプラグをACアダプターのソケットに接続します。

2 電源コードを接続する

- 電源コードをACアダプターに接続します。
- プラグをコンセントに差し込みます。
- 使い終わったら、プラグをコンセントから抜いてください。

3 コードを溝にはめ込む

- コードを傷つけないように、ていねいにはめ込んでください。

4 DCカプラーを入れる

- ふたを開け、DCカプラーコード通し部のカバーを開きます。
- DCカプラーをロック位置まで入れ、コードを通し部に入れます。
- ふたを閉じます。

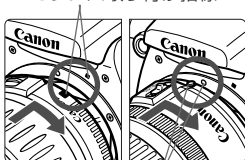
カメラの電源スイッチを〈ON〉にしたままで、電源コードの抜き差しを行わないでください。

レンズを取り付ける／取り外す

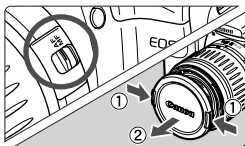
取り付け方

1 キャップを外す

- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。

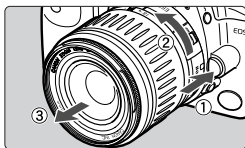
EF-Sレンズ取り付け指標

EFレンズ取り付け指標

2 レンズを取り付ける

- EF-Sレンズとカメラの、白いEF-Sレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印方向に「カチッ」と音がするまで回します。
- EF-Sレンズ以外のレンズを取り付ける場合は、赤いEFレンズ取り付け指標に合わせます。

3 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

- 〈MF〉になっているとオートフォーカスできません。

4 レンズキャップを外す

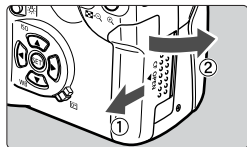
取り外し方

レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

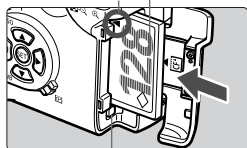
- 回転が止まるまで回してから、外してください。

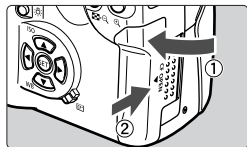
EF-Sレンズは本機専用です。ほかのEOSカメラには構造上、取り付けられないようになっています。

CFカードを入れる／取り出す

撮影した画像は、CFカード(別売)に記録されます。
CFカードには、厚さの異なるタイプⅠ、タイプⅡがありますが、このカメラでは、どちらのタイプでも使用できます。

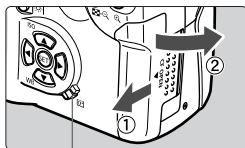
入れ方

1 カバーを開く

● カバーを矢印の方向にスライドさせてから、開きます。

2 CFカードを入れる

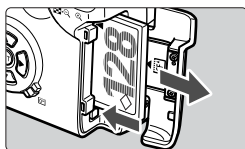
● キヤノン製CFカードのご使用をおすすめします。
● CFカードのラベル面（◀マーク印刷側）を手前にして、◀マークの矢印の向きにしっかりと奥まで差し込みます。
➡ CFカード取り出しボタンが飛び出します。

3 カバーを閉じる

● カバーを閉じてから、矢印の方向に「カチッ」と音がするまでしっかりとスライドさせます。
➡ 電源スイッチを〈ON〉にすると、表示パネルに撮影可能枚数が表示されます。

撮影可能枚数は、使用するCFカードの空き容量や、設定したISO感度などにより変動します。

取り出し方

アクセスランプ

1 カバーを開く

- 電源スイッチを〈OFF〉にします。
- 表示パネルに「busy」が表示されていないことを確認します。
- アクセスランプが消えていることを確認して、カバーを開きます。

2 CFカードを取り出す

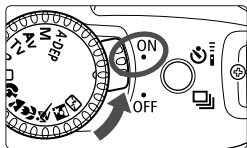
- CFカード取り出しボタンを押し込みます。
- ➡ CFカードが出てきます。
- カバーを閉じます。

● アクセスランプが点滅しているときは、CFカードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。絶対に次のことを行わないでください。画像データが壊れます。
また場合によってはCFカードが壊れたり、カメラ本体が損傷する原因となります。
・カメラ本体に振動や衝撃を与える
・CFカードスロットカバーを開く
・バッテリーを取り出す

- 撮影後の現像処理中と、CFカードへの画像記録中(アクセスランプ点滅中)は、メニュー機能の操作はできません。
- 表示パネルに「Err CF (エラーシーエフ)」が表示された場合は、96ページを参照してください。
- 低容量のCFカードでは、画像サイズが大きくなると、CFカードに記録できないことがあります。
- マイクロドライブは、CFカードに比べると振動や衝撃に弱いため、マイクロドライブをお使いになるとき、特に記録や再生中は、カメラに振動や衝撃を与えないよう、十分にご注意ください。

撮影の基本操作

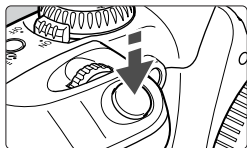
電源スイッチ

このカメラは電源スイッチを〈ON〉にして初めて作動します。

〈ON〉： カメラを作動させるときはこの位置にします。

〈OFF〉： カメラは作動しません。
カメラを使用しないときはこの位置にします。

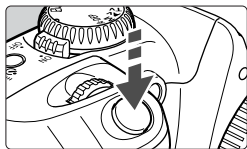
- バッテリーの消耗を防ぐため、約1分間何も操作しないと自動的に電源が切れます。シャッターボタンを押すと再度電源が入ります。電源が切れるまでの時間を、メニュー機能の[**オートパワーオフ**]（**ff1**）で変えることができます。
- 撮影直後に電源スイッチを〈OFF〉にすると、CFカードへの画像記録を行うため、数秒間アクセスランプが点滅する場合があります。
CFカードへの画像記録が終了すると、自動的に電源が切れます。

シャッターボタン

シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで押すことを「全押し」といいます。

半押し

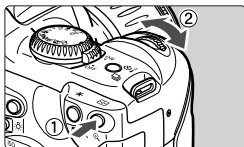
AF（オートフォーカス）によるピント合わせと、自動露出機構によるシャッター速度と絞り数値の設定が行われます。
露出値（シャッター速度と絞り数値）が、表示パネルとファインダー内に表示されます（⏱4）。

全押し

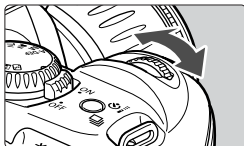
シャッターが切れて撮影されます。

- シャッターが切れる瞬間にカメラが動くことを「手ブレ」といい、全体がぼけたような写真になります。鮮明な写真を撮るために次の点に注意してください。
  - ・カメラが動かないようにしっかり構えてください。
  - ・シャッターボタンに指の腹をかけ、カメラ全体を握るような感じで、静かに押します。
- カメラがどんな状態(画像再生中、メニュー選択中、画像記録中など)にあっても、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります(ダイレクトプリント出力中を除く)。

電子ダイヤルによる機能の選択と設定

〈〉で、撮影に関する設定や準備、液晶モニター表示内容の選択･設定などを行います。

〈〉による基本操作

(1) ボタンを押したあと、〈〉を回す

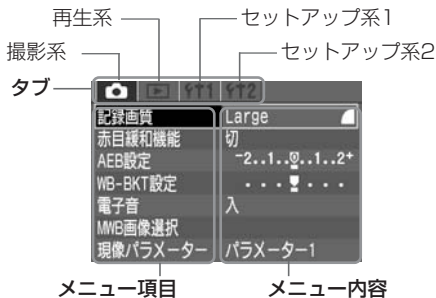
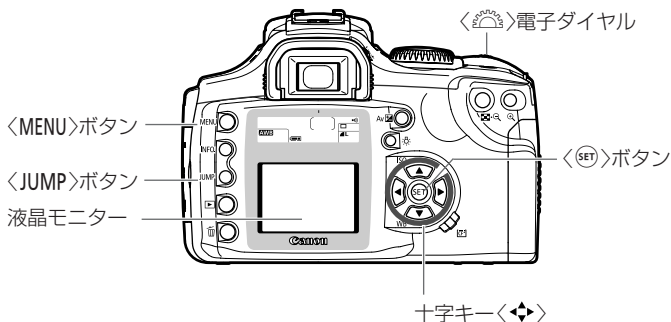
撮影時は、ボタンを押すとその機能選択状態がタイマー(⏱6)で保持されます。その間に表示パネルを見ながら〈〉を回します。タイマーが終了するかシャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

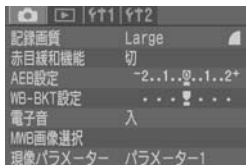
- AFフレーム、ISO感度、ホワイトバランスの選択･設定に使用します。

(2)〈〉のみを回す

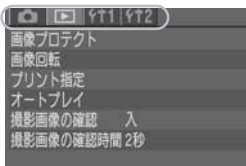
表示パネルやファインダー内表示を見ながら〈〉を回します。

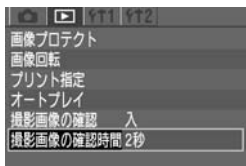
- シャッター速度や絞り数値の設定などに使用します。
- 画像再生中は、画像の切り換えができます。

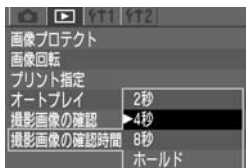
メニュー機能の操作と設定

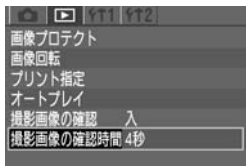
このカメラでは、記録画質や日付/時刻などのさまざまな設定をメニュー機能で行います。基本操作は、液晶モニターを見ながらカメラ背面の〈MENU〉ボタン、〈JUMP〉ボタン、十字キー〈▲▼〉、〈◀▶〉、〈SET〉を使って、次の手順で行います。

- メニュー画面を表示している状態でも、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります。
- 簡単撮影ゾーンでは、表示されないメニュー項目があります(28)。
- この項以降のメニュー機能の説明は、メニュー項目、またはメニュー内容が表示されていることを前提に説明しています。
- 十字キーと同じことが〈電子ダイヤル〉でもできる場合があります。

メニュー機能の設定操作

1 メニューを表示する

● 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。もう一度押すと表示が消えます。

2 タブを選ぶ

● 〈JUMP〉ボタンを押して項目を選びます。
● タブが明るい状態のときは、〈◀▶〉でも選ぶことができます。

3 メニュー項目を選ぶ

● 〈▲▼〉を押して項目を選び、〈SET〉を押します。
● 〈 〉でも選ぶことができます。
● この状態で、〈JUMP〉ボタンを押すと、タブの選択になります。

4 メニュー内容を選ぶ

● 〈▲▼〉または〈◀▶〉で内容を選びます(内容によって〈▲▼〉で選ぶ場合と、〈◀▶〉で選ぶ場合があります)。
● 〈 〉でも選ぶことができます。

5 内容を設定する

● 〈SET〉**を押すと設定が終り、はじめのメニュー画面に戻ります。**

6 終了する

● 〈MENU〉ボタンを押して終了します。

メニュー機能一覧

〈撮影〉

記録画質	Large Large Middle Middle Small Small RAW
赤目緩和機能	切 入
AEB設定	1/3段ステップ、±2段
WB-BKT設定	1段ステップ、±3段
電子音	入 切
MWB画像 選択	ホワイトバランスの 手動設定
現像 パラメーター	パラメーター1 パラメーター2 Adobe RGB セット1 セット2 セット3 設定

〈再生〉

画像プロテクト	画像の保護
画像回転	画像を縦横回転
プリント指定	プリントする画像を指定
オートプレイ	画像の自動再生
撮影画像の確認	切 入 入(Info)
撮影画像の確認 時間	2秒 4秒 8秒 ホールド

〈設定1〉

オートパワー オフ	1分 2分 4分 8分 15分 30分 切
縦横自動回転 表示	入 切
液晶の明るさ	5段階
日付／時刻	日付／時刻の設定
ファイル番号	通し番号 オートリセット
CFカード 初期化	記録内容を初期化して 消去

〈設定2〉

言語	12言語
ビデオ出力方式	NTSC PAL
通信設定	標準 PTP
カメラ設定 初期化	カメラの設定を初期状 態に戻す
撮像素子の清掃	清掃できる状態にする
ファームウェア Ver.	バージョン情報を表示

選択できる言語

英語、ドイツ語、フランス語、オランダ語、デンマーク語、フィンランド語、イタリア語、ノルウェー語、スウェーデン語、スペイン語、簡体中国語、日本語

（網掛け）この項目は、簡単撮影ゾーンでは表示されません。

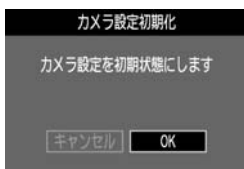
液晶モニターについて

背面の液晶モニターは、記録画像の確認や選択、メニュー機能の選択･設定に使用します。

- 液晶モニターをファインダーとして見ながら撮影することはできません。
- 液晶モニターの明るさを、メニュー機能の[**液晶の明るさ**]（**ƳƬ1**）で調整することができます。

カメラの各機能設定を初期状態にするには

1 [カメラ設定初期化]を選ぶ

- ［**ƳƬ2**］タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して[**カメラ設定初期化**]を選び、〈SET〉を押します。

2 初期状態にする

- 〈▶〉を押して[**OK**]を選び、〈SET〉を押すと、初期状態になります。

➡ カメラの状態は次の表のようになります。

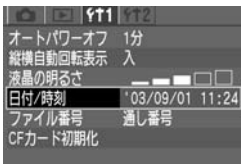
撮影機能関係

AFフレーム選択	自動選択
ドライブモード	1枚撮影
露出補正	0(ゼロ)
AEB設定	解除

記録画像関係

記録画質	**L** ◢(ラージ／ファイン)
ISO感度	100
ホワイトバランス	AWB（オート）
WB-BKT設定	解除
現像パラメーター	パラメーター1
縦横自動回転表示	入
ファイル番号	通し番号

MENU 日付／時刻を設定する

日付や時刻を設定・修正するときは、次の手順で設定します。

1 [日付/時刻]を選ぶ

- 〈ƒ1〉タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して[**日付/時刻**]を選び、〈(SET)〉を押します。

➡ 日付／時刻設定画面が表示されます。

2 日付と時刻を設定する

- 〈▲▼〉を押して数字を合わせ、〈(SET)〉で設定します。
- 設定すると、次の項目に移動します。

3 日付の表示順序を選ぶ

- 〈▲▼〉を押して[**年/月/日**]、[**月/日/年**]、[**日/月/年**]の中から、希望する順序を選びます。

4 〈(SET)〉を押す

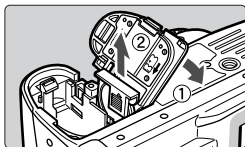
➡ 日付／時刻が設定され、メニューに戻ります。

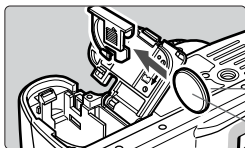
撮影した画像には撮影した日付／時刻が一緒に記録されます。日付／時刻が設定されていないと、撮影した日付／時刻が正しく記録されませんので、必ず正しく設定してください。

日付／時計機能用電池を交換する

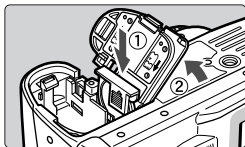
日付／時計機能用電池(バックアップ電池)の電池寿命は約5年です。電池残量がなくなると、表示パネルに「C bC」と表示されます。そのときは、新しいCR2016リチウム電池を次の手順で交換してください。

日付／時刻が初期化されますので、必ず再設定してください。

1 電源スイッチを〈OFF〉にする

2 ふたを開けてバッテリーを取り外す

3 電池ホルダーを取り出す

4 電池を入れ換えてホルダーを入れる

- ＋－を正しくあわせて入れます。

(＋)
(－)

5 ふたを閉じる

 日付／時計機能用電池は、必ずCR2016リチウム電池を使用してください。

MENU 撮像素子（CMOS）を清掃する

撮像素子とは、フィルムカメラでいえばフィルムにあたる部分です。撮像素子の表面にゴミやほこりなどが付くと、撮影した画像の同じ部分に黒い点などが写り込むことがあります。このような場合は、次の手順で撮像素子の表面についたゴミなどを清掃してください。ただし、撮像素子は非常にデリケートな部品ですので、清掃が必要なときはできるだけお客様相談窓口にお申し付けください。
清掃を行うときは、ACアダプターキット ACK-E2（別売／124）による家庭用電源のご使用をおすすめします。バッテリーを使用する場合は、必ず残量が十分にあるバッテリーを使用してください。清掃を始める前にレンズを取り外してください。

---

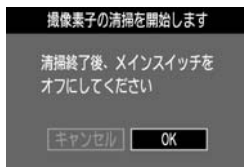
1 DCカプラー（20）**かバッテリーを入れて、電源スイッチを〈ON〉にする**

2 [撮像素子の清掃]を選ぶ

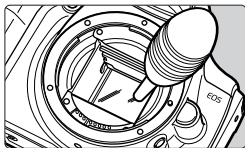
- 〈ƒ2〉タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して[**撮像素子の清掃**]を選び、〈SET〉を押します。

➡ バッテリー使用時は、十分な残量があるときに手順**3**の画面が表示されます。

- バッテリー残量が不足しているときは、警告画面が表示され、次の操作には進めません。バッテリーを充電するか、DCカプラーを使用して、もう一度手順**1**からやり直してください。

3 [OK]を選ぶ

- 〈◀▶〉を押して[OK]を選び、〈SET〉を押します。

➡ ミラーが上がり、シャッターが開きます。

➡ 表示パネルに「CLEA n」が点滅表示されます。

4 撮像素子を清掃する

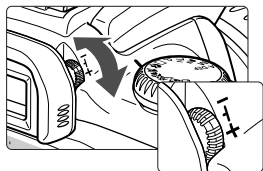
- ブロアー(市販品)で慎重に撮像素子表面のほこりを吹き飛ばします。

5 清掃を終了する

- 電源スイッチを〈OFF〉にします。
- ➡ カメラの電源が切れ、シャッターが閉じ、ミラーが下がります。
- 電源スイッチを〈ON〉にすると、通常の撮影準備状態になります。

- **清掃中は絶対に次のことを行わないでください。電源が切れてシャッターが閉じ、シャッター幕や撮像素子が損傷するおそれがあります。**
  - **・電源スイッチ〈OFF〉**
  - **・CFカードスロットカバーを開く**
  - **・バッテリーを取り出す**
- ブロアーは、レンズマウント面より内側に入れないでください。バッテリー切れや停電などにより電源が切れると、シャッターが閉じ、シャッター幕や撮像素子が損傷する原因となります。
- ブロアーは、ブラシの付いていないものを使用してください。ブラシが撮像素子に触れると、表面に傷が付くことがあります。
- 高圧のエアーやガスを吹き付けて清掃しないでください。圧力により、撮像素子が破損したり、吹き付けたガスが凍結することで撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- バッテリー残量が少なくなると、電子音が鳴り、表示パネルの〈▭〉が点滅します。電源スイッチを〈OFF〉にして、残量が十分にあるバッテリーに交換し、初めからやり直してください。

鮮明なファインダーに調整する

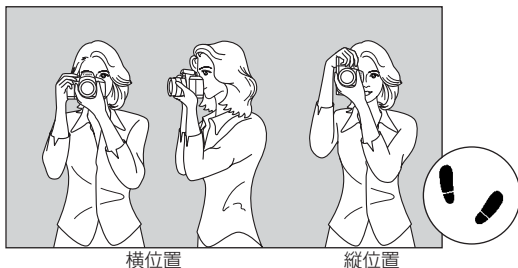
ファインダー内が鮮明に見えるように調整します。視度調整することによって、メガネを使用している方でも、メガネをかけずにファインダー内をはっきり見ることができます。調整は、－3～＋1dptの範囲で行うことができます。

視度調整つまみを回す

- ファインダー内のAFフレームがもっとも鮮明に見えるように、つまみを右または左に回します。
- 図の位置が標準(－1dpt)の位置です。

視度調整してもファインダーが鮮明に見えない方は、別売の視度補正レンズE(10種)のご使用をおすすめします。

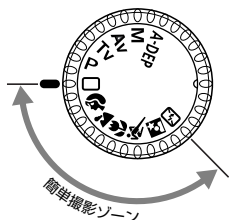
カメラの構え方

鮮明な画像を撮るために、カメラが動かないようしっかりと構えて撮影します。

横位置　　縦位置

- カメラのグリップを右手で包むようにしっかりと握り、ひじを軽く体に付けます。
- 左手でレンズ部を下から支えるように持ちます。
- カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。
- 両足はそろえずに、片足を軽く踏み出して、体を安定させます。

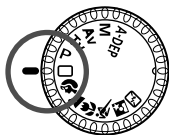
2

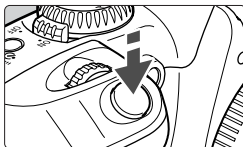
カメラまかせの自動撮影

この章ではモードダイヤルの簡単撮影ゾーンにある〈□〉〈 〉〈 〉〈 〉〈 〉〈 〉〈 〉を使って簡単に撮影する方法を説明しています。このゾーンでは、シャッターボタンを押せば誰でもカメラまかせで撮影できます。また、誤操作による失敗を防ぐため、〈WB〉〈ISO〉〈 〉〈 〉ボタンなどの撮影に関する操作はできないようにしてありますので、安心して撮影してください。

モードダイヤルを〈□〉〈 〉〈 〉〈 〉〈 〉〈 〉〈 〉のいずれかにする

- 撮影の手順は『□全自動で撮る』(36)と同じです。

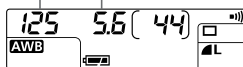
□全自動で撮る

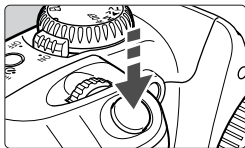
シャッターボタン以外の操作をする必要がなく、どんな被写体でも安心して気軽に撮ることができます。7つのAFフレームで被写体をとらえますので、誰でも簡単にきれいな写真が写せます。

1 モードダイヤルを〈□〉にする

AFフレーム

2 被写体にAFフレームを合わせる

- カメラが主被写体と判断したAFフレームでピントを合わせます。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
- ➡ ピントが合うとピントを合わせたAFフレーム内の〈・〉が一瞬赤く光り、「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内右下に合焦マーク〈●〉が点灯します。

4 表示を確認する

- ➡ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。

5 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 液晶モニターに撮影した画像が約2秒間表示されます（MENU）。

- 〈AF〉でピント合わせするときは、レンズ先端のフォーカスリングに手を触れないようにしてください。
- レンズのズーム操作は、ピント合わせの前に行ってください。ピントを合わせたあとでズームリングを動かすと、ピントがズレることがあります。
- CFカードの残量がなくなると、表示パネルとファインダー内にCFフル警告「Full CF」が表示され、撮影できなくなります。残量のあるCFカードに入れ換えてください。
- 誤ってストロボが上がるのを阻害した場合は、表示パネルの〈Err 05〉が点滅して警告します。そのときは、電源スイッチを切／入すると正常に戻ります。
- 他社製のレンズをEOSに使用すると、カメラまたはレンズが正常に作動しないことがありますのでご注意ください。

- AFでピントが合うと同時に、ピントと露出はロックされます。
- 合焦マーク〈●〉が点滅するときは、撮影できません(62)。
- 7つのAFフレームでとらえた被写体のうち、原則としてもっとも近距離にある被写体に、自動的にピントが合います。
- AFフレーム内の〈・〉が複数同時に赤く光ることがあります。そのときは、赤く光ったすべての位置にピントが合っています。
- 簡単撮影ゾーン(〈〉、〈〉、〈〉を除く)では、暗いときや日中逆光時に内蔵ストロボが自動的に上がって発光します。収納するときは手で押し下げます。
- ピントが合ったときの電子音を、メニュー機能の[**電子音**]（）で入／切することができます。

イメージにあわせて撮る

撮影目的に応じたモードを選ぶだけで、効果的な写真を簡単に撮影できます。簡単撮影ゾーンで設定できる機能は、『撮影機能の組み合わせ一覧』(118)を参照してください。

ポートレート

背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮るようなときに使用します。

- シャッターボタンを押し続けると連続撮影になります。
- 望遠レンズを使用して、人物の上半身がファインダーいっぱいになるくらいにすると、背景を効果的にぼかすことができます。また被写体をできるだけ背景から離すとより効果的です。

風景

広がりのある風景や夜景などを撮るようなときに使用します。

- 広角レンズを使用すると、近くから遠くまでの奥行きに加えて、横の広がりも表現することができます。

クローズアップ

草花や昆虫などを大きく撮るようなときに使用します。

- できるだけ使用レンズの最短撮影距離まで被写体に近づいて撮影すると効果的です。
- ズームレンズの場合は、望遠側にすると被写体をさらに大きく撮影できます。
- 本格的なクローズアップ撮影には、別売のEOS専用マクロレンズとマクロストロボの使用をおすすめします。

スポーツ

動きの速い被写体の瞬間をとらえた写真を撮るようなときに使用します。

- はじめに中央のAFフレームで被写体をとらえます。その後、7つのAFフレームのいずれかで被写体をとらえていればピントを合わせ続けます。
- シャッターボタンを押し続けると被写体にピントを合わせ続け、連続撮影になります。

夜景ポートレート

夕暮れや夜景を背景にした人物を撮影するときに使用します。人物にはストロボ光があたり、背景は遅いシャッター速度でそれぞれをきれいに撮影できます。

- 人物が入らない夜景のみを撮影するときは〈〉で撮影してください。
- ストロボが発光してもすぐに動かないように、写真を撮られる人に声をかけてください。

ストロボ発光禁止

美術館など、ストロボ撮影が禁止されている場所や、自然光を生かした雰囲気のある写真を撮影するときに使用します。

- 内蔵ストロボ、EOS専用外部ストロボ使用時ともに発光しません。

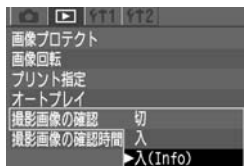
 〈〉では、手ブレを防ぐために必ず三脚を使用してください。また、〈〉、〈〉でシャッター速度が点滅したときは手ブレにご注意ください。

MENU 撮影画像を見る

撮影画像の確認

撮影直後の画像を、すぐにカメラ背面の液晶モニターで確認することができます。表示の方法は、撮影画像がそのまま表示される[入]、撮影画像と撮影情報を表示する[入(Info)]、撮影画像を表示しない[切]の3種類があります。

1 [撮影画像の確認]を選ぶ

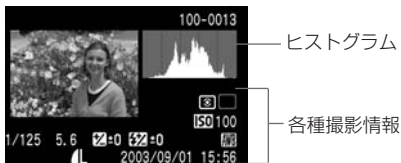
- 〈▶〉タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して[**撮影画像の確認**]を選び、〈SET〉を押します。

2 撮影画像の確認を設定する

- 〈▲▼〉を押して希望する項目を選び、〈SET〉を押します。

3 撮影する

➡ 撮影された画像が液晶モニターに表示されます。

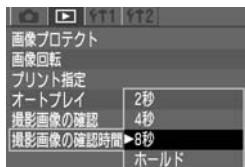
[入]の場合

[入(Info)]の場合(85)

連続撮影したときは、現像処理が終了した画像を連続して自動再生します。

撮影画像の確認時間

撮影直後の画像確認時間を設定することができます。設定できる時間は[2秒][4秒][8秒]と、撮影画像を表示したままにする[ホールド]の4種類があります。

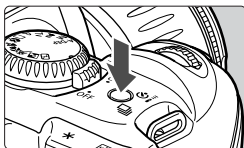
1 [撮影画像の確認時間]を選ぶ

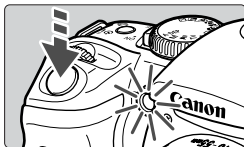
- 〈▶〉タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して[撮影画像の確認時間]を選び、〈SET〉を押します。

2 撮影画像の確認時間を設定する

- 〈▲▼〉を押して希望する確認時間を選び、〈SET〉を押します。

- [ホールド]に設定した場合、撮影画像はシャッターボタンを半押しするまで表示されます。ただし、オートパワーオフ設定時は、設定時間になると自動的に電源が切れます。
- 表示中に〈🗑〉ボタンを押したあと、〈▶〉を押して[OK]を選び、〈SET〉を押すと、表示中の画像を消去することができます。
- 今までに撮影した画像を確認したい場合は、『撮影画像の再生』(83)を参照してください。

⏲セルフタイマー撮影

簡単撮影ゾーンでも応用撮影ゾーンでも使えます。セルフタイマー撮影をするときは三脚をお使いください。

1 〈□・⏲〉ボタンを押す（⏱6）

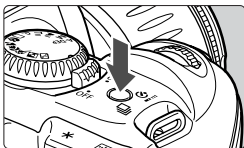
● 〈□・⏲〉ボタンを押して、表示パネルに〈⏲〉を表示させます。

2 ピントを合わせる

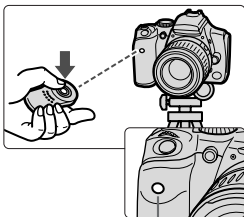
● 撮影の手順は『□全自動で撮る』(36)と同じです。
● ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを全押しします。
➡ 電子音が鳴り、約10秒後に撮影されます。
始めの8秒間：ゆっくりピッ、ピッ音
／セルフタイマーランプ遅い点滅
最後の2秒間：早くピピピピ音
／セルフタイマーランプ点灯
➡ セルフタイマー作動中は、表示パネルに撮影されるまでの秒数が減算で表示されます。

レンズの前に立ってシャッターボタンを押すと、狙った被写体にピントが合わなくなります。

● セルフタイマー撮影を途中で中止するときは、〈□・⏲〉ボタンを押します。
● 自分一人だけをセルフタイマーで撮るときは、自分が入る位置とほぼ等しい距離にあるものにフォーカスロック(61)して撮影します。

ワイヤレスリモコンを使って撮る

リモートコントローラーRC-1、RC-5(別売)を使用すると、カメラの正面から約5m離れて撮影できます。

1 〈・〉ボタンを押す（6）

- 〈・〉ボタンを押して、表示パネルに〈〉を表示させます。

リモコン受信部

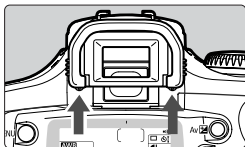
2 撮影する

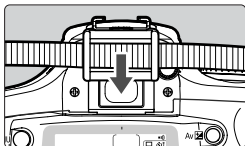
- 送信部をカメラのリモコン受信部に向けて送信ボタンを押します。

➡ セルフタイマーランプが点灯して撮影されます。

- リモコン撮影は、続けてできません。
  1枚撮影したあと、アクセスランプの点滅が消えてから、次の撮影を行ってください。次の撮影ができるまでの時間は、記録画質〈**M**〉〈**L**〉で5〜10秒、〈RAW〉で10〜20秒を目安にしてください。
- 蛍光灯が近くにあると、蛍光灯の種類によってカメラが誤作動することがあります。できるだけカメラを蛍光灯から離してください。

アイピースカバーの使い方

セルフタイマーやリモコンを使うときなど、ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すと、ファインダーから入った光によって露出が変わることがあります。そのようなときは、ストラップのベルト部分の端についているアイピースカバーを使います。

1 アイカップを外す

● アイカップの下側を押して取り外します。

2 アイピースカバーを取り付ける

● ファインダー接眼部の溝に沿って、アイピースカバーを取り付けます。

3

撮影画像に関する設定

この章では、記録画質、ISO感度、ホワイトバランス、現像パラメーター、ファイル番号、縦横自動回転表示といった、撮影に関わるデジタルカメラ特有の機能設定について説明します。

簡単撮影ゾーンでは、この章の中の、記録画質（RAW を除く）、ファイル番号、縦横自動回転表示の選択･設定、カメラの設定内容の確認のみが行えます。

MENU 記録画質の選択

〈RAW〉以外の記録画質は、汎用性の高いJPEG(ジェイペグ)形式で記録されます。〈RAW〉は撮影後、コンピューターで現象処理を行う必要があります。以下の説明では、例えば[Large◢]の場合、頭文字をとって、〈L ◢〉というように、表示パネルに表示される記号を使用しています。

1 [記録画質]を選ぶ

- 〈📷〉タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して[**記録画質**]を選び、〈SET〉を押します。

2 記録画質を設定する

- 〈▲▼〉を押して希望する記録画質を選び、〈SET〉を押すと設定されます。

記録画質を選ぶときの目安

Large (ラージ)	A4サイズ(297X210mm)以上でプリントするときに選択。 大きい画像サイズ(約630万画素)で記録します。
Middle (ミドル)	A5～A4サイズ程度でプリントするときに選択。 中くらいの画像サイズ(約280万画素)で記録します。
Small (スモール)	A5サイズ(210X148mm)よりも小さくプリントするときに選択。 小さい画像サイズ(約160万画素)で記録します。
RAW (ロウ)	A4サイズ(297X210mm)以上でプリントするときに選択。 大きい画像サイズ(約630万画素)を、画像劣化のない方式で記録します。 ●コンピューターでの現像処理を前提としているため、専門的な知識が必要ですが、付属ソフトウェアの現像機能によって、使用目的に最適な画像を創ることができます。 ●RAWで撮影した画像は、ダイレクトプリントやプリント指定ができません。

- ◢(ファイン)、▟(ノーマル)は、画像の圧縮率のことです。画質優先のときは低圧縮率の〈◢〉を、撮影枚数優先のときは高圧縮率の〈▟〉を選びます。
- ホワイトバランスやコントラストなどの画像調整を行って、RAWデータから画像を創り出すことを現像処理といいます。

記録画質に対する1枚のサイズと撮影可能枚数の目安

記録画質	画像サイズ（記録画素数）	記録形式	1枚のサイズ（約MB）	撮影可能枚数（約枚）
L（ファイン）	3072×2048（約630万）	JPEG	3.1	38
L（ノーマル）			1.8	65
M（ファイン）	2048×1360（約280万）		1.8	66
M（ノーマル）			1.2	101
S（ファイン）	1536×1024（約160万）		1.4	88
S（ノーマル）			0.9	132
RAW＋M（ファイン）	RAW：3072×2048（約630万）	RAW＋JPEG	7	16

- 撮影可能枚数は128MBのCFカード使用時の枚数です。
- 1枚のサイズ、撮影可能枚数は、当社試験基準によります（ISO100、現像パラメーター：［パラメーター1］設定時）。被写体、撮影モード、ISO感度、現像パラメーターにより異なります。
- ご使用になるCFカードの撮影可能枚数は、表示パネルで確認することができます。
- 〈RAW〉を選択したときは、RAW画像のファイル内に〈M（ファイン）〉のJPEG画像が同時記録されます。
  JPEG画像を抽出するときは、専用のソフトウェアを使用します。詳しくは、ソフトウェア使用説明書を参照してください。
- 記録画質は、簡単撮影ゾーン、応用撮影ゾーンで別々に設定することができます。

ISO ISO感度の設定

ISO感度とは、撮影時の光に対する敏感度を数値化したものです。数値が大きくなるほど感度が高く、暗い場所での撮影や動きのある被写体の撮影に向いていますが、撮影画像にノイズが入るなど、画像が粗くなる場合があります。逆に感度が低い場合は、暗い場所での撮影や動きのある被写体の撮影には向いていませんが、きめ細かな画像が撮影できます。

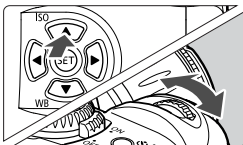
簡単撮影ゾーンでのISO感度

ISO100～400の間で、ISO感度が自動的に設定されます。　(ISO)

	□	🞄	▲	✿	🏃	★	⚡
通常撮影（ストロボなし）	自動*	100	自動*	自動*	400	自動*	自動*
内蔵ストロボ使用時	400**	100		400**		400**	
外部ストロボ使用時	100	100	100	100	400	100	

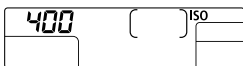
* ISO100～400の間で自動設定されます。 **日中逆光時はISO100に設定されます。

応用撮影ゾーンでのISO感度

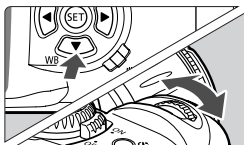
ISO感度を「100」「200」「400」「800」「1600」の中から選択することができます。

1 〈ISO〉（▲）ボタンを押す（⏱6）

➡ 表示パネルに現在設定されている感度が表示されます。

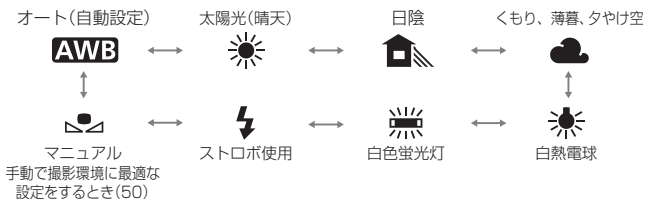
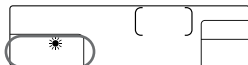
2 ISO感度を設定する

- 表示パネルを見ながら〈ダイヤル〉を回し、希望する感度を選びます。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- ISO感度を高くしたり、高温下で使用すると、画像に含まれるノイズ成分がやや多くなります。
- 高温･高ISO感度･長時間露光の条件で撮影を行うと、撮影画像に色ムラが発生することがあります。

WB ホワイトバランスの選択

通常は、〈AWB〉で最適なホワイトバランスが自動設定されます。〈AWB〉で自然な色あいにならないときは、光源別にホワイトバランスを選択したり、手動設定で調整します。簡単撮影ゾーンでは〈AWB〉に自動設定されます。

1 **〈WB〉(▼)ボタンを押す**（6）

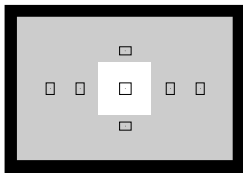
2 **ホワイトバランスを選ぶ**

- 表示パネルを見ながら〈〉を回し、希望するホワイトバランスを選びます。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

ホワイトバランスについて

光源中に含まれるRGB3原色（赤・緑・青）の構成比は、色温度によって変化します。色温度が高い場合は、青の要素が強くなり、色温度が低い場合は、赤の要素が強くなります。

人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。デジタルカメラの場合は、ソフトウェア的に色温度を調整して、被写体に含まれる色の基準となる白を決め、白を基準に色を補正して自然な色合いで撮影できます。このカメラの〈AWB〉は、撮像素子を使用して行います。

MENU マニュアルホワイトバランス

マニュアルホワイトバランスは、ホワイトバランスの基準となる白い被写体を撮影し、この画像を選ぶことでホワイトバランスデータを取り込み、ホワイトバランスを設定します。

1 白い被写体を撮影する

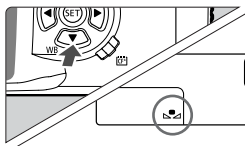
- ファインダー中央に、白い無地の被写体がくるようにします。
- レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして、手動でピントを合わせます(62)。
- どのホワイトバランス(49)設定でも構いません。
- 白い被写体が標準露出になるよう撮影します。露出がアンダー、またはオーバーになると正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。

2 [MWB画像選択]を選ぶ

- 〈📷〉タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して[MWB画像選択](MWB:マニュアルホワイトバランス)を選び、〈SET〉を押します。

3 画像を選ぶ

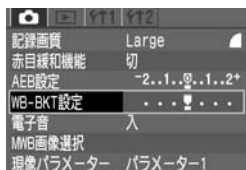
- 〈◀▶〉を押して手順1で撮影した画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ ホワイトバランスデータが取り込まれます。
- 〈MENU〉ボタンを押して、メニューを終了します。

4 [ ]を選ぶ

- 〈WB〉(▼)ボタンを押します。(6)
- 〈 〉を回して[ ]を選びます。
- ➡ マニュアルホワイトバランスが設定されます。

MENU ホワイトバランスを自動的に変えて撮る

1回の撮影で色あいの異なる3枚の画像を記録することができます。設定しているホワイトバランスモードの標準色温度を基準に、1段ステップ±3段の範囲で、カメラが自動的に処理を行います。これをホワイトバランスブラケティング撮影といいます。1段は、フィルムカメラで使われる色温度変換フィルターの5ミレッドに相当します。

1 記録画質を[RAW]以外にする(46)

記録画質	Large
赤目緩和機能	切
AEB設定	⁻2..1..0..1..2⁺
WB-BKT設定	・・・・・・・
電子音	入
MWB画像選択	
現像パラメーター	パラメーター1

2 [WB-BKT設定]を選ぶ

- 〈 〉タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して[[WB-BKT設定]を選び、〈SET〉を押します。

ブラケティングレベル

3 ブラケティングレベルを設定する

- 〈◀▶〉を押してブラケティングレベルを設定し、〈SET〉を押します。
- ➡ 選択しているホワイトバランスのマークが点滅します。
- ➡ 表示パネルの撮影可能枚数が約1/3になります。

4 撮影する

➡ 標準色温度、青色寄りに補正（マイナス補正）、赤色寄りに補正（プラス補正）の順に3枚の画像がCFカードに記録されます。

記録画質が〈RAW〉に設定されているときは、ホワイトバランスブラケティングは機能しません。

- 連続撮影のときは、撮影した枚数の3倍の画像が記録されます。
- 1回の撮影で3枚の画像を記録するため、通常の撮影よりもCFカードへの画像記録時間が長くなります。
- ホワイトバランスブラケティングとAEB（74）を組み合わせて撮影できます。そのときは、AEB撮影で露出を変えて撮影した3枚画像に、ホワイトバランスブラケティングが適用されるため、合計9枚の画像がCFカードに記録されます。

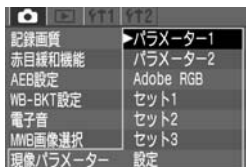
ホワイトバランスブラケティングの解除

- 手順2と3の操作でブラケティングレベルを〈・・・■・・・〉にして、〈SET〉を押します。
- 電源スイッチ〈OFF〉でも解除されます。

MENU 現像パラメーターを選択する

撮影画像を、鮮やかでくっきりした感じにしたり、逆に控えめにしたりすることができます。現像パラメーターには、あらかじめ設定されているパラメーター1、2、Adobe RGB(アドビ アールジービー)と、自分で設定した内容で撮影できるセット1、2、3があります。

1 [現像パラメーター]を選ぶ

- 〈📷〉タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して[**現像パラメーター**]を選び、〈SET〉を押します。

2 現像パラメーターを選ぶ

- 〈▲▼〉を押して希望する項目を選び、〈SET〉を押します(項目の内容は、下の表を参照)。

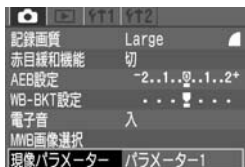
現像パラメーター

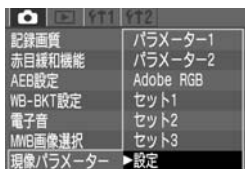
項　目	内　容
パラメーター1	鮮やかでくっきりした感じに仕上がります。簡単撮影ゾーンでは、すべてこの感じで撮影されます。
パラメーター2	パラメーター1よりも､やや控えめな感じに仕上がります。
Adobe RGB	主に商用印刷などの業務用途で使用します。 とても控えめな感じに仕上がるため、撮影後、画像処理を行う必要があります。画像処理とAdobe RGBについての専門的な知識がない方にはおすすめできません。 *ICCプロファイルは付加されません。プロファイル変換を行う場合は、Adobe RGBを指定してください。
セット1～3	はじめに、[**設定**]で内容を設定します(54)。
設定	セット1～3の設定を行います。

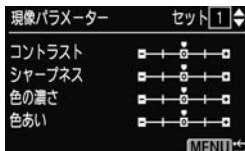
*Adobe RGB以外では、sRGBの色空間で撮影されます。

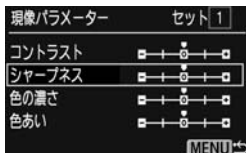
MENU 現像パラメーターを設定する

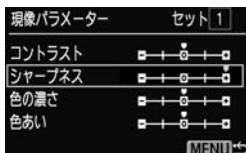
撮影した画像の現像処理の内容(パラメーター：［コントラスト］［シャープネス］［色の濃さ］［色あい］／各5段階)をカメラで任意に設定して、3件まで登録·セットすることができます。

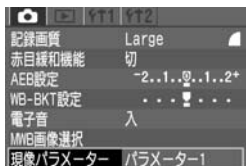
項　目	マイナス	プラス
コントラスト	明暗差・弱	明暗差・強
シャープネス	輪郭強調・控えめ	輪郭強調・強め
色の濃さ	薄め	濃いめ
色あい	肌色が赤め	肌色が黄色め

1 [現像パラメーター]を選ぶ

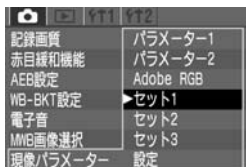
- 〈📷〉タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して［現像パラメーター］を選び、〈SET〉を押します。

2 [設定]を選ぶ

- 〈▲▼〉を押して［設定］を選び、〈SET〉を押します。
- ［セット1］～［セット3］の初期状態は、すべてのパラメーターが［0］(標準)に設定されています。

3 セット番号を選ぶ

- 〈▲▼〉を押してセット［1］～［3］のいずれかを選び、〈SET〉を押します。

4 項目を選ぶ

- 〈▲▼〉を押して項目を選び、〈SET〉を押します。

5 内容を設定する

- 〈◀▶〉を押して効果を設定し、〈SET〉を押します。

6 メニュー[現像パラメーター]に戻る

- 〈MENU〉ボタンを2回押して手順**1**と同じ状態に戻り、〈SET〉を押します。

7 設定したセット番号を選ぶ

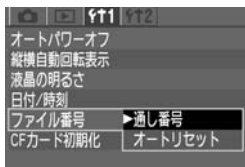
- 〈▲▼〉を押して設定したセット番号（[**セット1**]～[**セット3**]）を選び、〈SET〉を押します。

[**パラメーター1**]は、コントラスト／シャープネス／色の濃さを1段プラス側に設定したものです。[**パラメーター2**]は、すべての項目を 0 に設定したものです。

MENU ファイル番号の設定方式

ファイル番号は、フィルムカメラのフィルムコマ番号に相当するもので、[**通し番号**]と[**オートリセット**]の2種類があります。撮影した画像は、自動的に0001～9999までのファイル番号が付けられて、ひとつのフォルダに最大100画像ずつ保存されます(フォルダは自動的に作られます)。

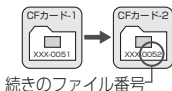
1 [ファイル番号]を選ぶ

- 〈**ƒƒ1**〉タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して[**ファイル番号**]を選び、〈SET〉を押します。

2 設定する項目を選ぶ

- 〈▲▼〉を押して[**通し番号**]または[**オートリセット**]を選び、〈SET〉を押します。

通し番号

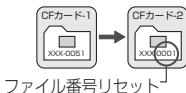
CFカードを交換しても、最後に撮影した画像の続き番号が次の画像に付けられます。撮影した画像のファイル番号が重複しないため、画像をコンピューターでまとめて管理するようなときに有効です。

CFカードを交換した場合

続きのファイル番号

オートリセット

CFカードを交換すると、ファイル番号が初期値(XXX-0001)に戻ります。撮影した画像のファイル番号が、0001から始まりますので、CFカード単位で分類したいときなどに有効です。

CFカードを交換した場合

ファイル番号リセット

フォルダ番号999が作成されると、液晶モニターに[**フォルダ番号がいっぱいです**]と表示されます。さらにファイル番号が9999になると、表示パネルとファインダー内に「Err CF」(CFエラー警告)表示されます。新しいCFカードに交換してください。

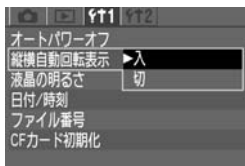
MENU 縦横自動回転表示

縦位置撮影した画像を再生するときに、画像の確認が行いやすいよう、画像を自動回転させて表示することができます。

自動回転表示は、[縦横自動回転表示] [入]の設定で撮影した画像のみ可能です。[切]の設定で撮影した画像は、自動回転表示できません。

オートパワーオフ
縦横自動回転表示 ▶入
液晶の明るさ 切
日付/時刻
ファイル番号
CFカード初期化

1 [縦横自動回転表示]を選ぶ

- 〈ƒ1〉タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して[**縦横自動回転表示**]を選び、〈SET〉を押します。

2 設定する項目を選ぶ

- 〈▲▼〉を押して[**入**]を選び、〈SET〉を押します。

3 縦位置で撮影する

- 撮影直後に液晶モニターに表示される画像は自動回転表示されません。

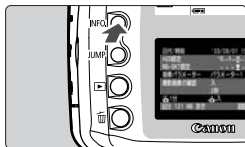
4 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 縦位置で撮影した画像が左図のように見やすい位置で表示されます。

カメラを上や下に向けて撮影すると、正しく自動回転表示されない場合があります。

カメラの縦横の向き（姿勢）を変えると、姿勢を検出するセンサーの機構により、小さな音がすることがありますが、故障ではありません。

INFO. カメラの設定内容を確認する

撮影準備状態で〈INFO.〉ボタンを押すと、現在カメラに設定されている内容が液晶モニターに表示されます。

設定内容を表示する

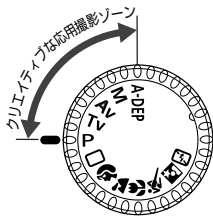
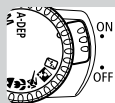
- 〈INFO.〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターにカメラの設定内容が表示されます。
- 再度〈INFO.〉ボタンを押すと、液晶モニターが消えます。

設定内容表示

再生時の画像情報表示については、『撮影画像の情報表示』(84)を参照してください。

4

撮影目的にあわせた応用撮影

応用撮影ゾーンではシャッター速度や絞り数値を選択したり、露出を自分の好みに変えるなど、カメラの設定を思いどおりに変えることで、さまざまな撮影をすることができます。

● 被写界深度確認、露出補正、AEB、AEロック、バルブ、ホワイトバランスブラケティングは応用撮影ゾーンでのみ行うことができます。

あらかじめ電源スイッチを〈ON〉に設定してください。

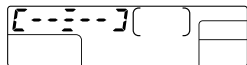
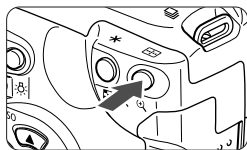
AFフレームの選択

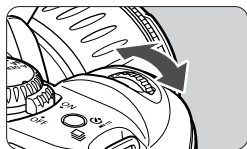
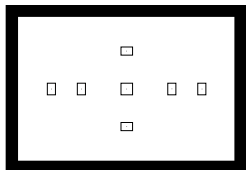
AFフレームとはピントを合わせる枠のことをいいます。AFフレームの選択方式には自動選択と任意選択があります。簡単撮影ゾーン、および〈A-DEP〉では自動選択になります。〈P〉、〈Tv〉、〈Av〉、〈M〉の各撮影モードでは、自動選択と任意選択を切り換えることができます。

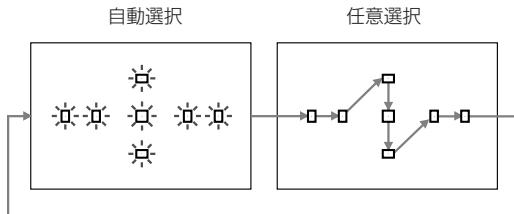
自動選択

撮影状況に応じてカメラが自動的にAFフレームを選択してピントを合わせます。

任意選択

7つのAFフレームから、任意の1点を手動で選択します。狙った被写体に確実にピントを合わせたいときや、より構図優先の迅速なAF撮影を行いたいときに便利な機能です。

1 〈AFフレーム選択〉ボタンを押す（6）

➡ 現在選択されているAFフレームが点灯します。

2 AFフレームを選択する

- 表示パネル、またはファインダー内のAFフレーム点灯表示を見ながら〈メイン電子ダイヤル〉を回し、循環するAFフレームの中から希望する状態を選択します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

フォーカスロック撮影

AFでピントを合わせたあと、ピントを固定したまま構図を変えて撮影する方法を「**フォーカスロック撮影**」といいます。

1 応用撮影ゾーンにする

- 〈**A-DEP**〉以外の撮影モードを選びます。

2 任意のAFフレームを選択する

3 選択したAFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる

4 シャッターボタンを半押ししたまま構図を変える

5 撮影する

内蔵ストロボによるAF補助光について

暗い場所などでシャッターボタンを半押しすると、内蔵ストロボが連続的に光ることがあります。これはAFでピントを合わせやすくするためです。

- 〈 〉、〈 〉、〈 〉では、AF補助光は光りません。
- 内蔵ストロボによるAF 補助光によってピントが合う範囲は約4mまでです。
- 応用撮影ゾーンでは、〈 〉ボタンを押してストロボを上げておくと、必要に応じてAF補助光が光ります。

AFの苦手な被写体(手動ピント合わせ)

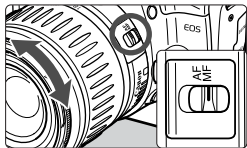
次のような特殊な被写体に対してはピント合わせができない(合焦マーク〈●〉が点滅する)ことがあります。

ピントが合いにくい被写体

(a) コントラスト(明暗差)が極端に低い被写体
　例:青空、単色の平面など
(b) 非常に暗い場所にある被写体
(c) 極端な逆光状態にあり、かつ光の反射が強い被写体
　例:反射光の強い車のボディ
(d) 被写体が遠いところと近いところに共存する状態
　例:おりの中の動物

これらの場合は次のいずれかの方法でピントを合わせます。

(1) 被写体とほぼ同じ距離にあるものでフォーカスロックし、構図を決めなおして撮影する。
(2) レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして手動ピント合わせを行う。

手動でピントを合わせる(マニュアルフォーカス)

フォーカスリング

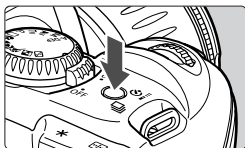
1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉に切り換える

2 ピントを合わせる

- ファインダー内の被写体がはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。

- シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせをすると、ファインダー内にピントが合ったAFフレームと合焦マーク〈●〉が点灯します。
- 外部ストロボ使用時にAF補助光でピントが合わない場合は、中央のAFフレームを選択してください。中央以外のAFフレームではピントが合わないことがあります。
- 〈**AF**〉はAuto Focus(オートフォーカス)の略で自動ピント合わせのことです。
- 〈**MF**〉はManual Focus(マニュアルフォーカス)の略で手動ピント合わせのことです。

ドライブモードの選択

ドライブモードには1枚撮影と連続撮影(最高約2.5コマ／秒)があります。

〈□ᵢ・ᴥᵢ〉ボタンを押す(6)

➡ 押すたびにドライブモードが切り換わります。

● 連続撮影は、応用撮影ゾーンで選択できます。

□ ：1枚撮影
□ᵢ ：連続撮影
ᴥᵢ ：セルフタイマー／リモコン撮影

● 連続撮影した画像は、一度カメラの内部メモリーに保存されてから、順次CFカードに記録されるため、連続撮影で内部メモリーがいっぱいになると、表示パネルとファインダー内に「buSY」が表示され、一時的に撮影ができなくなります。
CFカードへの記録経過にともない、次の撮影ができるようになりますので、シャッターボタン半押しでファインダー内右下に表示される「連続撮影時の最大撮影可能枚数」(4～ 0)で、そのとき撮影できる枚数を確認してください。なお、「連続撮影時の最大撮影可能枚数」は、CFカードを入れていないときは表示されません。

● 内部メモリーからすべての撮影画像がCFカードへ記録される前(アクセスランプ点滅中)にシャッターボタンを半押しすると、CFカードへの記録が一時的に中止されます。

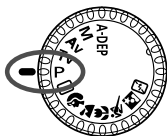
● ファインダー内と表示パネルに「FuLL CF」が表示されたときは、必ずアクセスランプの点滅が消えてから、CFカードを交換してください。

● 合焦マーク〈●〉の左側に表示される数字「4」～「0」は、最大何枚連続撮影できるかを示しています。

● ホワイトバランスブラケティング(51)設定時も連続4枚の撮影ができます。

P プログラムAE撮影

〈□〉と同じように気軽に撮影できます。被写体の明るさに応じてカメラがシャッター速度と絞り数値を自動設定します。これをプログラムAEといいます。

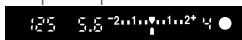
* **P**は、Program(プログラム)の略です。
* AEは、Auto Exposure(オートエクスポージャー)の略で自動露出のことです。

1 モードダイヤルを〈P〉にする

AFフレーム

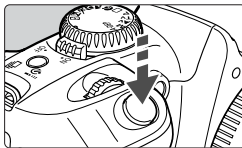
2 ピントを合わせる

● ファインダーをのぞいてAFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。

シャッター速度

絞り数値

3 表示を確認する

➡ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。

● シャッター速度と絞り数値が点滅していなければ、適正露出です。

4 撮影する

● 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

● 「30"」と小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。ISO感度を上げてください。または、ストロボを使用してください。
● 「4000」と大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。ISO感度を下げてください。または、減光用のNDフィルターを使用してください。

● 応用撮影ゾーンと簡単撮影ゾーンの違いにつきましては、「撮影機能の組み合わせ一覧」(118)を参照してください。

プログラムシフトについて

● プログラムAEは自動的に設定されたシャッター速度と絞り数値の組み合わせ(プログラム)を、同じ露出のままで自由に変えることができます。これをプログラムシフトといいます。
● プログラムシフトはシャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッター速度または絞り数値が表示されるまで〈ダイヤル〉を回して行います。
● プログラムシフトは撮影すると自動的に解除されます。
● ストロボを使用するとプログラムシフトはできません。

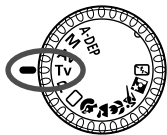
Tv シャッター速度を決めて撮る

シャッター速度を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。これをシャッター優先AEといいます。

シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができ、シャッター速度を遅くすると流動感を表現することができます。

＊ **Tv** は、Time value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。

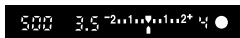
速いシャッター速度

遅いシャッター速度

1 モードダイヤルを〈Tv〉にする

2 シャッター速度を設定する

- 表示パネルを見ながら〈 〉を回して設定します。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 絞り数値が自動的に決まります。

4 表示を確認して撮影する

- 絞り数値が点滅していなければ適正露出です。

● 小さな絞り数値が点滅するときは、露出アンダー(露出不足)です。絞り数値の点滅が止まるまで〈⚙〉を回してシャッター速度を遅くします。または、ISO感度を上げます。

● 大きな絞り数値が点滅するときは、露出オーバー(露出過度)です。点滅が止まるまで〈⚙〉を回してシャッター速度を速くします。または、ISO感度を下げます。

シャッター速度の表示

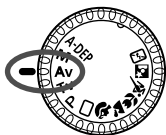
「4000」から「4」までは分数の分母を表しています。例えば「125」は1/125秒を表しています。また、「0"5」は0.5秒を、「15"」は15秒を表しています。

Av 絞り数値を決めて撮る

絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出に必要なシャッター速度を自動的に設定します。これを絞り優先AEといいます。絞り数値を小さくする（開く）と、背景をぼかした美しいポートレートが撮影できます。絞り数値を小さくするほど背景はぼけます。絞り数値を大きくする（閉じる）と、奥行きのある風景の手前から遠くまでが鮮明に写ります。絞り数値を大きくするほど鮮明に写る奥行きが深くなります。

＊ **Av** は、Aperture value（アパチャーバリュー）の略で開口量のことです。

小さい絞り数値

大きい絞り数値

1 モードダイヤルを〈**Av**〉にする

2 絞り数値を設定する

- 表示パネルを見ながら〈ダイヤル〉を回して設定します。

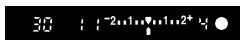
3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。

➡ シャッター速度が自動的に決まります。

30　−2··1··▼··1··2+　4 ●

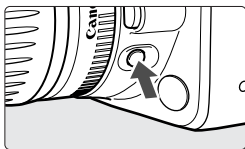
4 表示を確認して撮影する

- シャッター速度が点滅していなければ適正露出です。

- シャッター速度の「30"」が点滅するときは、露出アンダー(露出不足)です。シャッター速度の点滅が止まるまで〈〉を回して絞り数値を小さくして(絞りを開いて)ください。または、ISO感度を上げます。

- シャッター速度の「4000」が点滅しているときは、露出オーバー(露出過度)です。点滅が止まるまで〈〉を回して絞り数値を大きくして(絞りを閉じて)ください。またはISO感度を下げます。

絞り数値の表示

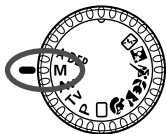
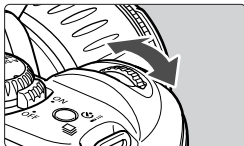
数字が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは「00」を表示します。

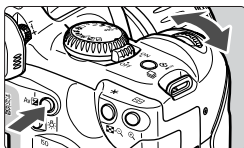
被写界深度を確認する

絞り込みボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値まで絞り込み、被写界深度(ピントの合っている範囲)をファインダーで確認することができます。

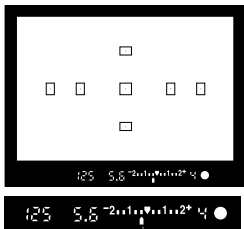
- 応用撮影ゾーンで機能します。
- 〈A-DEP〉では、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、半押ししたまま絞り込みボタンを押してください。
- 絞り込みボタンを押すと、露出が固定された(AEロック)状態になります。

M 自分で露出を決めて撮る

カメラまかせではなく自分でシャッター速度や絞り数値を決めて撮影をするときに設定します。露出はファインダー内の露出レベル表示を参考にしたり、単独露出計を利用し自分で任意に決めます。これをマニュアル露出といいます。

＊**M**は、Manual（マニュアル）の略です。

1 モードダイヤルを〈M〉にする

2 シャッター速度を設定する

- 〈⚙〉を回して希望するシャッター速度を設定します。

3 絞り数値を設定する

- 〈Av☒〉ボタンを押しながら〈⚙〉を回して、希望する絞り数値を設定します。

露出レベルマーク

4 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 露出値が表示されます。
- 露出レベルマーク〈▲〉で標準露出からどのくらいずれているか確認することができます。

5 露出を決める

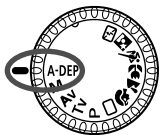
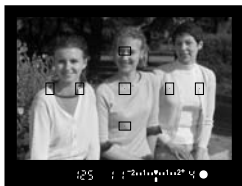
- 露出レベル表示を確認し、任意のシャッター速度、絞り数値を設定します。

6 撮影する

露出レベルマーク〈▲〉が〈-2〉または〈2+〉の位置で点滅しているときは、露出が±2段を超えていることを示しています。

A-DEP 近くから遠くまでピントが合った画像を撮る

たくさんの人で記念写真を撮ったり風景写真を撮るとき、自動的に近くから遠くまでピントを合わせて鮮明な画像を撮ることができます。7つのAFフレームでとらえた被写体のうち、近いところから遠いところまで鮮明に写ります。

＊ A-DEPは、Auto-Depth of field（オートデプスオブフィールド）の略で自動被写界深度のことです。

1 モードダイヤルを〈A-DEP〉にする

2 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。（⏱4）
- 一瞬赤く光ったAFフレームのすべてにピントが合います。

3 撮影する

- レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉になっていると、〈A-DEP〉撮影できません。
- シャッター速度の「30"」が点滅するときは、被写体が暗すぎます。ISO感度を上げてください。
- シャッター速度の「4000」が点滅するときは、被写体が明るすぎます。ISO感度を下げてください。

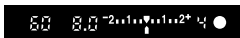
- 絞り数値が点滅するときは、露出は合っていますが、希望したピントの深さが得られません。レンズを広角にするか、被写体から離れてやりなおしてください。
- シャッター速度や絞り数値を自由に変更することはできません。遅いシャッター速度が設定されることがありますので、三脚の使用をおすすめします。
- ストロボを使用したときは〈P〉のストロボ撮影と同じ結果になります。

自分の好みに露出を補正する

カメラが決めた標準的な露出を意図的に変えることを露出補正といいます。露出を明るめ(プラス補正)にしたり、暗め(マイナス補正)にしたりして撮影できます。設定できる補正量は1/3段ステップで±2段の範囲です。

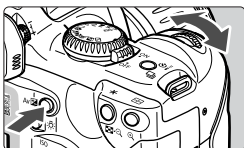
1 モードダイヤルを〈M〉以外の応用撮影ゾーンにする

2 露出表示を確認する

- シャッターボタンを半押しして、表示を確認します。

3 補正量を設定する

- 〈Av☒〉ボタンを押しながら〈⚙〉を回して、希望する補正量を設定します。
- 露出補正を解除するときは、補正量を〈▼〉の位置に戻します。

標準露出指標

−2..1..▼..1..2+

マイナス補正◄···► プラス補正

露出レベルマーク

4 撮影する

- 設定した補正量は電源スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。
- モードダイヤルを簡単撮影ゾーンにすると、露出補正は自動的に解除されます。
- シャッター速度1/125秒、絞り数値F5.6が適正露出のとき、露出レベルで1段の補正をするということは、シャッター速度、絞り数値のいずれかを以下のように変更することと同じです。

	−1段	←	0	→	＋1段
シャッター速度なら	250	←	125	→	60
絞り数値なら	8.0	←	5.6	→	4.0

MENU 露出を自動的に変えて撮る／AEB撮影

1/3段ステップ±2段の範囲で、自動的に露出を変えながら3枚の画像を撮影できます。これをAEB(Auto Exposure Bracketing:オートエクスポージャーブラケティング)撮影といいます。

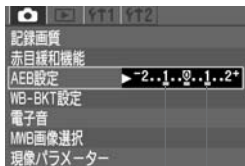
標準露出

マイナス補正

プラス補正

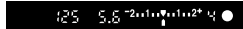
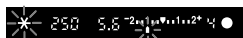
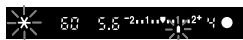
AEBレベル

1 [AEB設定]を選ぶ

- 〈📷〉タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して[**AEB設定**]を選び、〈SET〉を押します。

2 AEBレベルを設定する

- 〈◀▶〉を押してAEBレベルを設定し、〈SET〉を押します。

➡ 表示パネルに〈AEB〉とAEBレベルが表示されます。

標準露出

マイナス補正

プラス補正

3 撮影する

➡ 標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。

➡ 左図のように、撮影順に補正位置が表示されます。

➡ 設定しているドライブモードに従って撮影されます。

ストロボ撮影、およびバルブ撮影との併用はできません。

- ドライブモードが連続撮影のときは、3枚撮影後に自動停止します。1枚撮影の場合は、シャッターボタンを3回押して撮影してください。
- セルフタイマー／リモコンを併用したときは、自動的に3枚連続撮影されます。
- AEBと露出補正を組み合わせて使用することができます。

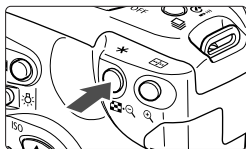
AEB撮影の解除

- 手順**1**、**2**の操作でAEBレベル量を〈▶ -2..1..0..1..2+〉にします。
- 電源スイッチ〈OFF〉、レンズ交換、ストロボ充電完了、バッテリー交換、CFカード交換でも自動解除されます。

✱ 露出を固定して撮る／AEロック撮影

選択したAFフレームで露出とピントを別々に決めることができます。最初に露出を決めたあとで構図を変える必要がある撮影に利用します。これをAEロック撮影といいます。逆光下での撮影などに有効です。
なお、応用撮影ゾーンでは、AEロック撮影時は自動的に部分測光になります。

1 ピントを合わせる

➡ ファインダー内に露出値が表示されます。

2 〈✱〉ボタンを押す(⏱4)

➡ ファインダー内に〈✱〉が表示され、露出が固定(AEロック)されます。

● 露出を合わせたい被写体をファインダー中央において〈✱〉ボタンを押します。

● 〈✱〉ボタンを押し直すたびに、そのときの露出値をAEロックします。

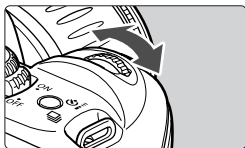
AEロック表示

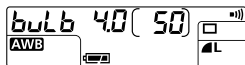
3 構図を決めて、撮影する

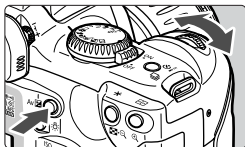
● 連続してAEロック撮影をする場合は、〈✱〉ボタンを押しながら、シャッターボタンを押してください。

長時間露光（バルブ）撮影

シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。これをバルブ撮影といいます。夜景や花火、天体の撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。

1 モードダイヤルを〈M〉にする

2 シャッター速度を「bulb」にする

- 表示パネルを見ながら〈⚙〉を回して「bulb」を選びます。
- 「30"」の次が「bulb」です。

3 絞り数値を設定する

- 〈Av☒〉ボタンを押しながら〈⚙〉を回して、希望する絞り数値を設定します。

4 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- 露光はシャッターボタンを押している間だけ行われます。

＊表示パネルに露光経過時間（秒）が表示されます。

長時間露光は撮影画像に含まれるノイズが多くなるため、多少ザラついた画像となります。

- バルブ撮影には、リモートスイッチRS-60E3（別売）の使用をおすすめします。
- リモートコントローラーRC-5（別売）でもバルブ撮影ができます。送信ボタンを押すと2秒後に露光が行われ、もう一度押すと撮影が終了します。
- 連続してバルブ撮影を行ったときの撮影可能時間は、約2.5時間（フル充電バッテリー使用時）です。

内蔵ストロボを使用した撮影

簡単撮影ゾーンでの内蔵ストロボ撮影

簡単撮影ゾーン（〈 〉〈 〉〈 〉を除く）では、暗いときや日中逆光時に、内蔵ストロボが自動的に上がって発光します。

応用撮影ゾーンでの内蔵ストロボ撮影

応用撮影ゾーンでは、〈 〉ボタンを押して、内蔵ストロボを上げてから撮影します。

P	カメラまかせのストロボ撮影を行いたいときに選択します。 シャッター速度と絞り数値は〈 〉（全自動）と同様、自動的に決まります。
Tv	1/200秒以下の任意のシャッター速度を設定したいときに選択します。 設定したシャッター速度に対し、カメラの測光で適正露出となる絞り数値が自動設定されます。
Av	任意の絞り数値を設定したいときに選択します。 夜景などを背景にした暗い場所では、主被写体も背景も適正露出となる、スローシンクロ撮影になります。主被写体はストロボ光で、背景はスローシャッターによる長秒時露光で適正露出になります。 ●自動スローシンクロ撮影では、シャッター速度が遅くなりますので、三脚を使用して撮影することをおすすめします。
M	シャッター速度も絞り数値も任意に設定したいときに選択します。 主被写体は、ストロボ光で適正露出となります。背景の露出は、設定したシャッター速度と絞り数値によって変わります。
A-DEP	〈**P**〉と同じストロボ撮影結果になります。

内蔵ストロボの届く距離

（EF-S18-55mm F3.5-5.6 USM使用時）

ISO感度	広角：18mm	望遠：55mm
100	約0.7～3.7m	約0.7～2.3m
200	約0.7～5.3m	約0.7～3.3m
400	約0.7～7.4m	約0.7～4.6m
800	約0.7～10.5m	約0.7～6.6m
1600	約0.7～14.9m	約0.7～9.2m

ストロボ同調シャッター速度と絞り数値

撮影モード	シャッター速度の設定	絞り数値の設定
P	自 動（1/60秒～1/200秒）	自 動
Tv	手 動（30秒～1/200秒）	自 動
Av	自 動（30秒～1/200秒）	手 動
M	手 動（バルブ～1/200秒）	手 動
A-DEP	自 動（1/60秒～1/200秒）	自 動

- **外部ストロボは、EXシリーズスピードライトをご使用ください。TTL、A-TTL自動調光のEZ/E/EG/ML/TLシリーズスピードライトをTTL、A-TTL自動調光状態で使用すると発光しません。マニュアル発光機能を持つスピードライトはマニュアル発光モードで撮影してください。**
- EXシリーズスピードライトを使用するときは、内蔵ストロボを収納してから取り付けてください。
- 被写体との距離が1m以内で内蔵ストロボ撮影すると、画面の一部がケラレ（欠け）て暗い画像になります。1m以上離れて撮影してください。
- レンズフードを付けたまま内蔵ストロボを使用すると、フードでストロボの光がケラレてしまいます。必ずフードを外してから撮影してください。
- 超望遠レンズ、大口径レンズを使用すると、内蔵ストロボの光がケラレることがあります。
- 内蔵ストロボ照射角の広角側限界は、レンズ表記焦点距離18mmまでです。

赤目緩和機能を使う

夜や暗い室内などで人物をストロボ撮影したときに目が赤く写ることがあります。これを「赤目現象」といい、ストロボの光が目の網膜に反射して起こります。赤目緩和機能を使うと、ストロボ撮影するときに目にやさしい赤目緩和ランプが点灯し、写る人の瞳孔を小さくして赤目現象を出にくくします。赤目緩和機能は〈 〉〈 〉〈 〉以外のすべての撮影モードで機能します。

1 [赤目緩和機能]を選ぶ

- 〈 〉タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して[**赤目緩和機能**]を選び、〈SET〉を押します。

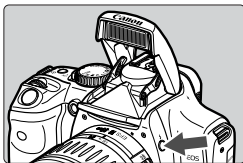
2 赤目緩和機能を設定する

- 〈▲▼〉を押して[**入**]を選び、〈SET〉を押します。

赤目緩和ランプ点灯表示

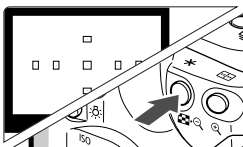
- シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に赤目緩和ランプ点灯表示が行われます。
- 写される人がランプを注視していないと効果がありませんので、写される人がランプを見るように声をかけてください。
- 効果的な赤目緩和撮影のためには、約1.5秒間の赤目緩和ランプ点灯表示が消えてからシャッターボタンを全押ししてください。
- 赤目緩和ランプ点灯中でも、シャッターボタンを全押しすると撮影できます。
- 赤目緩和効果の度合いには個人差があります。
- 室内を明るくしたり、写したい人に近づくとより効果的です。

✱FEロック撮影

FE(Flash Exposure：フラッシュエクスポージャー)ロック撮影は、被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。FEロックは応用撮影ゾーンで機能します。

1 〈ϟ〉の点灯を確認する

- 〈ϟ〉ボタンを押して内蔵ストロボを上げておきます。
- ファインダー内に〈ϟ〉が点灯していることを確認します。

2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。手順**4**まで半押ししたままにしておきます。

3 〈✱〉ボタンを押す(16)

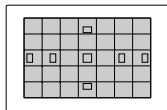
- ファインダーの中央に被写体を合わせて〈✱〉ボタンを押します。
- ➡ ストロボがプリ発光し、ファインダー内に〈✱〉が点灯します。
- 〈✱〉ボタンは押したままにしておきます。

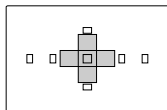
4 撮影する

- 構図を決めてシャッターボタンを全押しします。

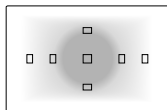
> ❗ 被写体までの距離が遠すぎて露出不足になるときは〈ϟ〉が点滅します。被写体に近づいてもう一度手順2〜4の操作をします。

測光方式について

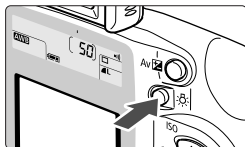
測光方式には、評価測光、部分測光、中央部重点平均測光の3つの方式があります。

評価測光

このカメラの標準測光方式で、逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。ファインダー内に占める被写体の位置、明るさ、背景、順光、逆光など複雑な光の要素をカメラの構え方に応じてカメラが判断し、主被写体を常に適正な露出にします。

部分測光

応用撮影ゾーンのAEロック撮影時に自動設定されます。逆光などで被写体の周辺に強い光がある場合の撮影に有効です。ファインダー中央部の約9%の範囲を測光します。

● 部分測光の測光範囲はほぼ左図の範囲となります。

中央部重点平均測光

〈**M**〉モード時に、自動設定されます。
ファインダー中央部に重点を置いて画面全体を平均的に測光します。

表示パネルの照明

〈 〉ボタンを押すたびに照明が点いたり消えたりします。表示パネルの照明はシャッターボタン半押しで消えます。

5

撮影画像の再生

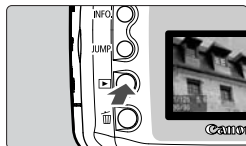
撮影した画像を見る方法や削除の方法、またテレビとの接続方法について説明します。

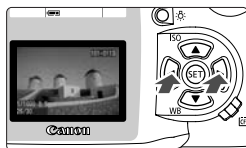
他の機器で撮影・記録された画像データについて

このカメラ以外で撮影された画像や、このカメラで撮影したあとにコンピューターなどで画像データを加工したり、ファイル名を変更した画像は、正常に表示できない場合があります。

撮影した画像を再生する

撮影した画像を自由に選択して、1枚表示や画像情報表示、インデックス表示、拡大ズーム表示などで見ることができます。

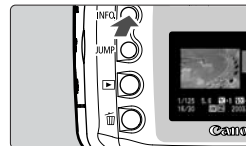
▶ 1枚表示

1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 最後に撮影された画像が液晶モニターに表示されます。

2 表示画像を切り換える

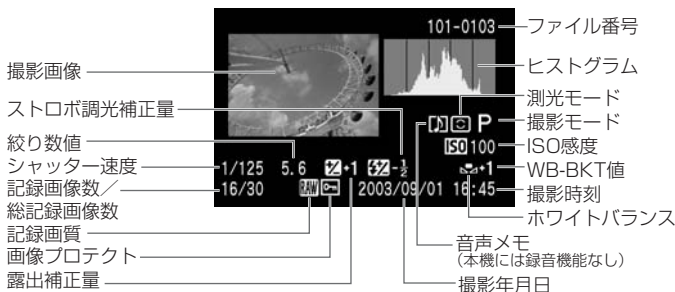
- 〈◀〉を押すと、新しい画像から順に古い画像が表示されます。
- 〈▶〉を押すと、古い画像から順に新しい画像が表示されます。
- 〈▶〉ボタンを押すと液晶モニターが消え、再生が終了します。

画像の切り換えは、表示形式に関係なく、〈◎〉でも行うことができます。

INFO. 撮影画像の情報表示

液晶モニターに画像が表示されているときに〈INFO.〉ボタンを押すと、画像の撮影情報が表示されます。

〈INFO.〉ボタンを押す

- 表示画像は1枚表示同様、十字キーの操作で切り換えられます。
- 押すごとに、1枚表示、画像情報表示が切り換わります。

画像表示の内容

ヒストグラムについて

ヒストグラムは、横軸に明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。
ヒストグラムでは、画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。
横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白く飛びます（ハイライト）。そのほかの成分は階調が再現されます。
再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

ヒストグラム例

暗い成分が多いとき

普通の明るさのとき

明るい成分が多いとき

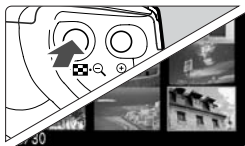
ハイライト警告表示について

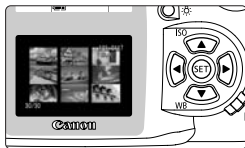
画像情報表示にしたときに、露出オーバーで白飛びした部分を点滅表示します。階調を再現させたい部分が点滅しているときは、露出をマイナス補正して再撮影すると良い結果が得られます。

⊞インデックス表示

1画面に9枚の画像を同時に表示します。

1 画像を表示する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 最後に撮影された画像が液晶モニターに表示されます。

2 インデックス表示にする

- 〈⊞・⊖〉ボタンを押します。
- ➡ 選択されている画像に緑色の枠がつきます。

3 画像を選ぶ

- 十字キーを押すと、緑色の枠が上下左右に動きます。

インデックス表示から別の表示形式に変えるには

- 〈▶〉ボタンを押すと1枚表示になります。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと、画像の撮影情報が表示されます。
- 〈⊕〉ボタンを1回押すと1枚表示に、もう一度押すと拡大表示になります。

インデックス表示中に〈JUMP〉ボタンを押して〈◀▶〉を押すと、前または次の9枚目の画像へジャンプすることができます。（88）

⊕／⊖ 拡大ズーム表示

撮影した画像を、約1.5倍～10倍に拡大して表示することができます。

1 画像を表示する

- 拡大したい画像を1枚表示、または画像情報表示で再生します。

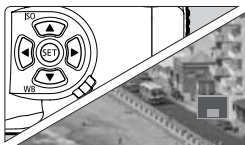
拡大表示位置

2 画像を拡大する

- 〈⊕〉ボタンを押します。
- ➡ 始めに画面の中央が拡大表示されます。
- 〈⊕〉ボタンを押し続けると、最大の拡大率まで連続的に大きくなります。
- 〈⊞・⊖〉ボタンを押すと、縮小表示になります。押し続けると、手順**1**の状態まで連続的に小さくなります。

3 表示位置を移動する

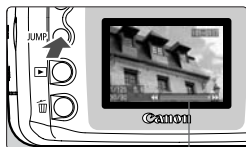
- 十字キーを押すと、表示位置が上下左右に移動します。

- 拡大表示を終了するときは、〈▶〉ボタンを押します。

拡大表示中に〈⚙〉を回すと、拡大位置、拡大率を固定した状態で、表示画像を切り換えることができます。

JUMPジャンプ表示

1枚表示、画像情報表示、インデックス表示、拡大表示のときに、画像を飛ばして表示(ジャンプ)することができます。

1 画像を表示する

● 1枚表示、画像情報表示、インデックス表示、拡大表示のいずれかで再生します。

ジャンプバー

2 ジャンプ表示にする

● 〈JUMP〉ボタンを押します。

➡ 画面の下にジャンプバーが表示されます。

3 前後の画像にジャンプする

● 〈◀▶〉を押します。拡大表示のときは〈ダイヤル〉を回します。

● 〈JUMP〉ボタンを押すとジャンプバーが消え、ジャンプが終了します。

1枚表示、画像情報表示、拡大表示のジャンプ

〈◀〉を押すと前の10枚目、〈▶〉を押すと次の10枚目の画像を表示します。

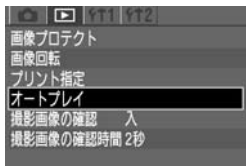
拡大表示のときは、拡大位置、拡大率が固定された状態でジャンプします。

インデックス表示のジャンプ

〈◀〉を押すと前の9枚目、〈▶〉を押すと次の9枚目の画像を表示します。

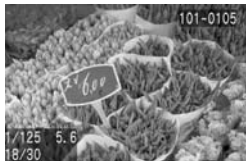
[**画像プロテクト**]、[**画像回転**]でジャンプ表示を行うこともできます。

MENU 撮影画像を自動再生する／オートプレイ

CFカードに記録されている画像を自動的に連続表示します。1画像の表示時間は約3秒です。

1 [オートプレイ]を選ぶ

- 〈▶〉タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して[**オートプレイ**]を選びます。

2 自動再生する

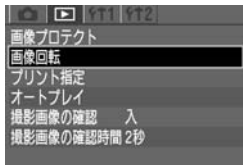
- 〈SET〉を押します。
- ➡ [**画像読み込み中…**]が数秒間表示されたあと、自動再生が始まります。
- 自動再生を一時停止したいときは、〈SET〉を押します。
- 一時停止中は画像の左上に[॥]が表示されます。再度〈SET〉を押すと、自動再生を再開します。

3 自動再生を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと終了してメニューに戻ります。

- 自動再生中は、オートパワーオフは機能しません。
- 撮影画像によっては、表示時間が異なる場合があります。

- 自動再生中に〈INFO.〉ボタンを押すと、画像情報表示の画面で自動再生します。再度〈INFO.〉ボタンを押すと、1枚表示の自動再生に戻ります。
- 一時停止中に〈◀▶〉を押すと、通常の1枚表示と同じように、表示画像を切り換えることができます。

MENU 撮影画像を回転して表示する

撮影画像を時計方向に90°、270°回転することができます。この機能で画像の向きをあらかじめ正しくセットしておくと、再生のときに正しい向きで表示することができます。

1 [画像回転]を選ぶ

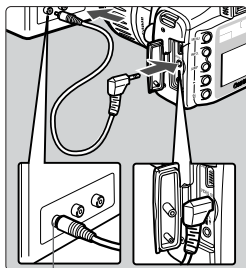
- 〈▶〉タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して[**画像回転**]を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画像回転画面になります。

2 画像を回転させる

- 〈◀▶〉を押して回転したい画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 〈SET〉を押すたびに、時計方向に回転します。
- ほかに回転したい画像があるときは、手順2を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、画像回転が終了しメニューに戻ります。

- メニュー[**縦横自動回転表示**]を[**入**](57)に設定して撮影すると、この機能で画像を回転させる必要がなくなります。
- 画像情報表示、拡大表示、インデックス表示で画像を回転することもできます。

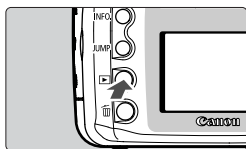
撮影した画像をテレビで見る

付属のビデオケーブルを使用すると、撮影した画像をテレビなどで見ることができます。接続の際は、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。
また、お使いのテレビ方式が(NTSCかPAL)にあわせて、メニュー機能の[**ビデオ出力方式**](**𝐘𝐓2**)を[**NTSC**]か[**PAL**]に切り換えてください。テレビ方式と異なる[**ビデオ出力方式**]を設定すると、画像が正しく表示されません。

ビデオ入力端子

1 カメラをテレビに接続する

- カメラの端子カバーを開けます。
- カメラのビデオ出力〈VIDEO OUT〉端子と、テレビのビデオ入力端子を付属のビデオケーブルで接続します。
- ケーブルのプラグは、根元までしっかりと差し込んでください。

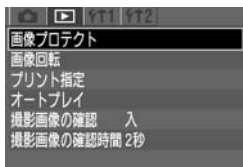
2 テレビの電源を入れ、入力切り換えをビデオ入力にする

3 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

4 〈▶〉ボタンを押す

➡ 画像がテレビに表示されます(液晶モニターには何も表示されません)。
- 見終わったら、電源スイッチを〈OFF〉にし、テレビの電源をオフにしてから、ビデオケーブルを外します。

- テレビを見ながら液晶モニターと同じように画像を見たり、メニュー設定を行うことができます。
- 使用するテレビ(モニター)によっては、画面表示がケラレることがあります。

MENU 撮影画像にプロテクトをかける

大切な画像を間違って消さないようにプロテクト(保護)をかけることができます。

1 [画像プロテクト]を選ぶ

- 〈▶〉タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して[**画像プロテクト**]を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プロテクト画面になります。

プロテクト表示

2 プロテクトをかける

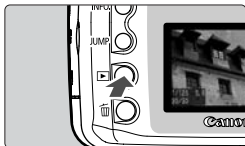
- 〈◀▶〉を押してプロテクトをかけたい画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プロテクトが設定されると、画面下に〈⊶〉が表示されます。
- 再度〈SET〉を押すと、プロテクトが解除され〈⊶〉が消えます。
- ほかにプロテクトをかけたい画像があるときは、手順**2**を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、画像プロテクトが終了しメニューに戻ります。

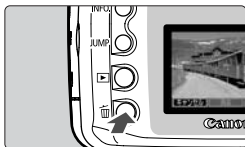
- プロテクトをかけた画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- **必要な画像にプロテクトをかけて全画像消去(94)を行うと、プロテクトをかけた画像以外はすべて消去されます。必要な画像以外を一度にまとめて消去する際に便利です。**
- 画像情報表示、拡大表示、インデックス表示で画像にプロテクトをかけることもできます。

🗑撮影画像を消去する

画像を消去する方法には、1枚ずつ消去する方法とCFカードに記録されているすべての画像を消去する方法があります。なお、プロテクトをかけた画像は、消去されません。

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。

1枚消去

1 画像を表示して、消去する画像を選ぶ

- 〈▶〉ボタンを押します。
- 〈◀▶〉を押して消去したい画像を選びます。

2 消去画面にする

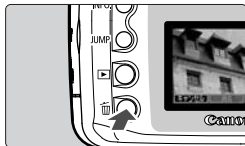
- 〈🗑〉ボタンを押します。
- ➡ 画面の下に消去メニューが表示されます。

3 消去する

- 〈◀▶〉を押して［**消去**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ アクセスランプが点滅して画像が消去されます。
- 他に消去したい画像があるときは、画像を選んで手順**2**、**3**を繰り返します。

全画像消去

1 画像を表示する

- 〈▶〉ボタンを押します。

2 消去画面にする

- 〈🗑〉ボタンを押します。
- ➡ 画面の下に消去メニューが表示されます。

3 [全画像...]を選ぶ

- 〈◀▶〉を押して[**全画像...**]を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 確認画面が表示されます。

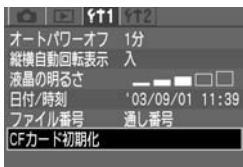
4 消去する

- 〈◀▶〉を押して[OK]を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プロテクトをかけていないすべての画像が消去されます。
- 消去中に〈SET〉を押すと消去作業が途中で中止されます。

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。

MENU CFカードを初期化する

このカメラで使用できるようにCFカードを初期化します。

CFカードを初期化すると、CFカード上の記録内容はすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、CFカード内の記録内容を十分に確認してから行ってください。必要な記録内容は、初期化する前に必ずコンピューターへ保存してください。

1 [CFカード初期化]を選ぶ

- 〈ƳƮ1〉タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して[**CFカード初期化**]を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 確認画面が表示されます。

2 初期化する

- 〈◀▶〉を押して[OK]を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ CFカードが初期化されます。
- ➡ 初期化が完了するとメニューに戻ります。

- キヤノン製以外のCFカードや、他のカメラ、コンピューターで初期化したCFカードを使用すると、正しく動作しない場合があります。そのときは、必ずこのカメラで初期化してください。初期化することで、使用できる場合があります。
- 初期化の画面で表示されるCFカードの総容量は、CFカードに書かれている容量よりも少なくなることがあります。

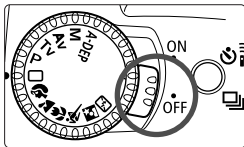
「Err CF」が表示されたときは

表示パネルに「Err CF」(CFエラー警告)が表示された場合は、CFカードに何らかの障害が発生して、記録／読み出しができない状態になっています。
別のCFカードに交換してください。
カードリーダー(市販品)を使用して、コンピューターでCFカードの内容が読み取れる場合は、CFカード内の撮影データをすべてコンピューターに保存してください。
すべての撮影データがコンピューターに保存されたことを確認したら、CFカードを初期化してください。正常な状態に戻る場合があります。

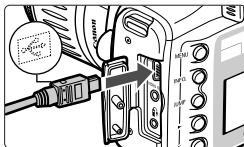
6

カメラダイレクトプリント

ダイレクトプリントに対応したキヤノン製プリンターをカメラと専用ケーブルで接続すると、簡単な操作できれいにプリントすることができます。ダイレクトプリントの操作はすべてカメラ側で行います。

カメラとプリンターを接続する

1 カメラの電源スイッチを〈OFF〉にする

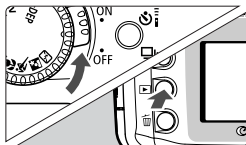
2 プリンターの準備をする

● 詳しくは使用するプリンターの使用説明書を参照してください。

3 カメラとプリンターを接続する

● 使用するケーブルと接続方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

● カメラ側を接続するときはプラグの〈•⟷〉が、カメラの前面に向くようにして、プラグをカメラのデジタル〈DIGITAL〉端子に差し込みます。

4 プリンターの電源を入れる

● プリンターの機種によっては、電源ケーブルを接続すると同時に電源が入るものがあります。

5 カメラの電源スイッチを〈ON〉にしたあと、〈▶〉ボタンを押す

➡ 画像が表示され、液晶モニターの左上に〈 〉または〈 〉が表示されます。

カードフォト
プリンター接続表示

BJプリンター接続表示

- ダイレクトプリントを行うときは、カメラの電源にACアダプターキットACK-E2(別売)のご使用をおすすめします。
- カメラの電源にバッテリーパックを使用するときは、フル充電されたバッテリーを使用してください。プリントする際はバッテリーの残量に注意してください。
- カメラのデジタル〈DIGITAL〉端子からケーブルを取り外すときは、カメラとプリンターの電源を切ってから、必ずプラグの側面を持って引いてください。
- カメラとプリンターの接続には、専用のインターフェースケーブル以外は使用しないでください。

プリンターを接続したままカメラを約6分間放置すると、自動的にカメラの電源が切れます。なお、オートパワーオフ(28)の設定時間が8分以上のときは、設定した時間で電源が切れます。

プリントする

プリントスタイル(フチのあり/なし、日付の入/切など)や、プリント枚数、プリント範囲(トリミング)を設定してプリントすることができます。
ダイレクトプリントの操作はすべてカメラ側で行います。
RAW形式の画像はダイレクトプリントできません。

プリンター接続表示

1 プリントする画像を選ぶ

- 液晶モニターの左上に〈〉または〈〉が表示されていることを確認します。
- 〈◀▶〉を押してプリントする画像を選びます。

2 〈SET〉を押す

➡ プリント設定画面になります。

プリント設定画面

プリント範囲枠：画面がカットされるときに表示されます。

設定されているプリントスタイルが表示されます。
〈〉は日付のマークです。

プリントスタイルを設定します。

何枚プリントするかを設定します。

プリント範囲を設定します。

手順1の画面に戻ります。
〈MENU〉ボタンでも戻ります。

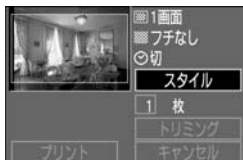
プリントを開始します。

3 プリントの[スタイル]を設定をする

- 「フチのあり／なし」、「日付の入／切」や、BJプリンターのペーパー(用紙)サイズの設定を行います。
- 設定方法は、次ページの『プリントスタイルの設定』を参照してください。

4 プリントする

- 〈▲▼〉を押して[**プリント**]を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プリントが開始されます。
- プリントが正常に終了すると、手順**1**の状態に戻ります。

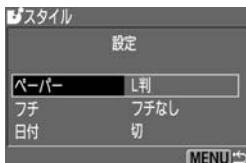
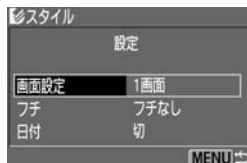
プリントスタイルの設定

1 [スタイル]を選ぶ

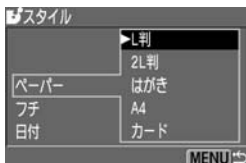
- 〈▲▼〉を押して[**スタイル**]を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ [**スタイル**]設定画面が表示されます。

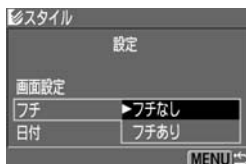
2 項目を選ぶ

- 〈▲▼〉を押して項目を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 内容が表示されます。

スタイル設定画面

BJプリンター

カードフォトプリンター

- BJプリンターでは、用紙サイズにあわせて、[**ペーパー**](用紙サイズ)の設定を行う必要があります。
- カードフォトプリンターでは、[**ペーパー**]が[**画面設定**]の項目に変わります。[**画面設定**]は、ペーパー(用紙)1枚に、1画像プリントするか、同じ画像を小さく8画面プリントするかを選択するものです。カードサイズのペーパー(用紙)使用時に選択できるようになります。
- 「フチのあり／なし」、「日付の入／切」は、どのプリンターでも同じように設定できます。

[ペーパー]
（BJプリンター）

[画面設定]
（カードフォトプリンター）

[フチ]

[日付]

3 内容を選んで設定する

- 〈▲▼〉を押して内容を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 選んだ内容が設定されます。
- 設定が終わったら、〈MENU〉ボタンを押してプリント設定画面に戻ります。

「フチあり」にすると、プリンターによっては日付がフチにかかることがあります。日付の背後が明るい場合や、フチの場合、プリンターによっては日付が薄く印刷されます。

- 日付 入にすると、画像に記録されている日付情報を入れてプリントします。
- 日付は、用紙の右下に印刷されます。
- カードフォトプリンターで[**分割画面**]を選択した場合、[**フチ**]、[**日付**]の設定はできません。[**フチなし**]、[**日付 切**]でプリントされます。また、画像の上下左右がカットされてプリントされます。

プリント枚数の設定

プリント枚数を設定する

- 〈▲▼〉を押して[**枚**]を選びます。
- 〈◀▶〉でプリント枚数を設定します。
- 1～99枚まで設定できます。

トリミング(プリント範囲)の設定

画面を部分的に拡大したプリントや、構図を変えたような感じでプリントすることができます。
事前に[**スタイル**]の設定を済ませておいてください。トリミングを設定したあとで、[**スタイル**]の[**フチ**]を設定変更すると、トリミングの再設定が必要になります。

1 [トリミング]を選ぶ

- 〈▲▼〉を押して[**トリミング**]を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ トリミング画面が表示されます。

2 トリミングする

- トリミング枠の内側がプリントされる範囲です。

枠の大きさを変える

〈⊕〉、〈▦·⊖〉ボタンを押すとトリミング枠の大きさが変わります。
トリミング枠を小さくするほど拡大してプリントされます。

枠を移動する

十字キーを押すとトリミング枠が上下左右に移動します。
好みの構図になるようトリミング枠を移動させます。

枠を回転する

〈INFO.〉ボタンを押すと、押すたびにトリミング枠が縦長、横長に変わります。

横位置で撮影した画像を、縦位置で撮影したようにプリントできます。

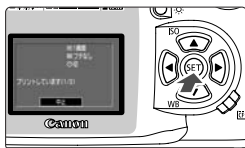
● 操作案内表示は、トリミング操作中消えます。操作をやめて5秒たつと再表示します。

3 設定を終了する

● 〈SET〉を押すとプリント設定画面に戻ります。

● フチなしにすると、プリンターの機種によっては、トリミング枠のとおりにプリントされないことがあります。
● トリミング枠を小さくするほどプリント画質が粗くなります。カードフォトプリンター使用時は、トリミングで画質が粗くなる場合、トリミング枠の色が赤に変わります。
● トリミングを設定したあとで、[**スタイル**]の[**フチ**]を設定変更すると、[**トリミングの再設定が必要です**]というメッセージが表示されます。[**トリミング**]を再設定するか、[**フチ**]の設定を元に戻してください。そのままプリントすると、トリミングされないでプリントされます。
● [**トリミング**]は、カメラの液晶モニターを見ながら行ってください。テレビを利用(91)してトリミングすると、トリミング枠が正しく表示されないことがあります。

[**トリミング**]の設定は、プリント終了時、または[**キャンセル**]操作時に解除されます。

プリントを中止する

[中止]が表示されている間に〈SET〉を押す

➡ プリントが中止されます。

➡ 確認画面が表示されたときは、〈◀▶〉を押して[OK]を選び、〈SET〉を押します。

プリント中止について

カードフォトプリンター接続時

プリント枚数が1枚のときは、プリントを中止できません。2枚以上のときは、次のプリントから中止されます。

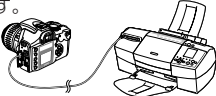
BJプリンター接続時

プリントが中止され、プリント中のペーパー(用紙)が排紙されます。

プリント中に問題が生じたとき

液晶モニターに、どのような問題が生じたかが表示されます。

- [**再開**]([**続行**])が表示されているときは、問題を解決したあと、[**再開**]([**続行**])を選び、〈SET〉を押します。〈SET〉を押したあと、「中止しますか?」と表示されたら、[**キャンセル**]を選んで〈SET〉を押すとプリントを再開します。なお、プリンターの種類によっては、自動的にプリントを再開します。
- [**中止**]しか表示されていないときは〈SET〉を押します。問題を解決したあと、初めからプリントしなおしてください。

7

撮影画像のプリント指定／DPOF

CFカードに記録されている画像の中から、プリントしたい画像や枚数などをあらかじめカメラで指定することができます。この機能をプリント指定機能（DPOF）といいます。DPOF対応のプリンターなどでプリントするときや、写真店にプリント注文するときに大変便利な機能です。

DPOF（ディーポフ）について

DPOF（Digital Print Order Format）は、デジタルカメラで撮影した画像の中からプリントしたい画像や枚数などの、プリント指定情報をCFカードなどの記録メディアに記録するための規格です。DPOF対応のデジタルカメラでプリント指定すると、次のようなことができます。

- DPOF対応のプリンターにCFカードを入れるだけで、指定したとおりにプリントできます。
- 写真店にプリントを注文する際、注文用紙にプリントしたい画像の指定や枚数などの記入が不要となります。
- ダイレクトプリント対応のプリンターから直接、指定したとおりにプリントできます。

＊ このカメラのプリント指定機能は、DPOFバージョン1.1に準拠しています。

MENU 撮影画像をプリント指定する

どのようにプリントするかの設定と、プリントする画像の選択を行います。プリントの設定では、インデックスプリント(用紙1枚に、縮小画像を複数プリント)の設定や、日付、ファイル番号の入／切が設定できます。この設定は、プリント指定したすべての画像に対して、一律に適用されます(1画像ごとに別々の設定はできません)。

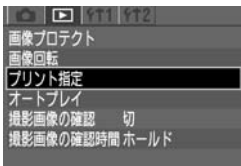
画像の選択は、「1画像ずつの指定」、または「全画像指定」のどちらか一方の設定ができます。

「1画像ずつの指定」をしたあとで「全画像指定」にすると、全画像指定の設定に変わりますので、注意してください。

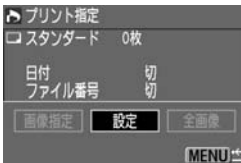
RAW 形式の画像はプリント指定できません。

プリントの設定

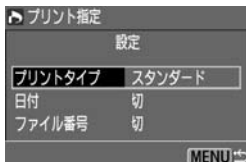
プリントタイプや、日付、ファイル番号の入／切を設定します。

プリントタイプ	スタンダード	用紙1枚に1画像をプリントします。
	インデックス	用紙1枚に縮小画像を複数プリントします。
	両方	スタンダードとインデックスの両方をプリントします。
日付	入	[入]にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れてプリントします。
	切	
ファイル番号	入	[入]にすると、ファイル番号を付けてプリントします。
	切	

1 [プリント指定]を選ぶ

- 〈▶〉タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して[**プリント指定**]を選び、〈SET〉を押します。

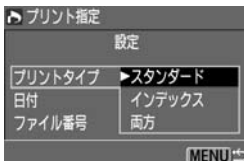
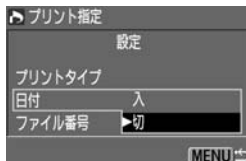
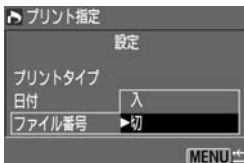
➡ プリント指定画面になります。

2 [設定]を選ぶ

- 〈◀▶〉を押して[**設定**]を選び、〈SET〉を押します。

➡ プリント設定画面が表示されます。

3 項目を選ぶ

● 〈▲▼〉を押して項目を選び、〈SET〉を押します。

➡ 内容が表示されます。

［プリントタイプ］

［日付］

［ファイル番号］

4 内容を選んで設定する

● 〈▲▼〉を押して内容を選び、〈SET〉を押します。

5 設定を終了する

● 〈MENU〉ボタンを押すと、プリント指定画面に戻ります。

● 次にプリント指定画面の[**画像指定**]、[**全画像**]で、プリントする画像を指定します(111)。

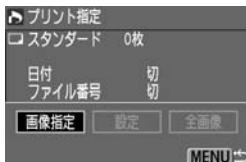
- [**日付**]、[**ファイル番号**]を[**入**]にしても、プリントタイプの設定や、プリンターの機種によってはプリントされないことがあります(下記参照)。

プリントタイプ		日付	ファイル番号
スタンダード		○	×
インデックス*		×	○
両方	スタンダード	○	×
	インデックス*	×	○

*BJプリンターでは、日付、ファイル番号ともプリントされません。

- [**インデックス**]では、[**日付**]と[**ファイル番号**]を同時に[**入**]にできません。また、[**日付**]を[**入**]にしてもプリントされませんので、[**ファイル番号**]を[**入**]にしてください。
- プリントするときは、プリント指定を行ったCFカードを使ってください。画像データだけCFカードから抜き出してプリントすると、指定した内容でプリントできません。
- DPOF対応プリンターの種類や、写真店の対応によっては、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、使用説明書をご確認ください。写真店の場合は、事前にお店にご確認ください。
- ほかの機種で撮影した画像を、このカメラに入れてプリント指定しないでください。すでにプリント指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類によっては、プリント指定できないことがあります。

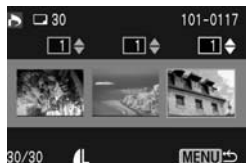
1画像ずつの指定

プリントタイプが[**スタンダード**]、[**両方**]のときは、画像ごとにスタンダードタイプのプリント枚数が設定できます。[**インデックス**]のときは、インデックスプリントに加える／加えないの選択ができます。

1 [画像指定]を選ぶ

- 〈◀▶〉を押して[**画像指定**]を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画像指定画面になります。

2 プリント指定する画像を選ぶ

- 〈◀▶〉を押して画像を選びます。
- 〈⊞・Q〉ボタンを押すと、3画像表示になります。〈⊕〉ボタンを押すと元の表示に戻ります。

3画像表示

3 プリントを指定する

● 108ページの『プリントの設定』にある、[プリントタイプ]によって指定の内容が変わります。

[スタンダード]、[両方]の場合

〈▲▼〉を押して、プリント枚数を1～99枚まで設定できます。

[インデックス]の場合

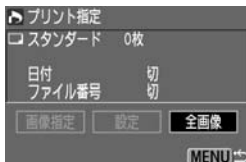
〈▲▼〉を押して、インデックスプリントに加える（画面左上に〈✓〉表示）／加えない（〈✓〉なし）が設定できます。

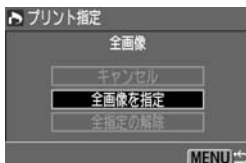
● ほかにプリントを指定したい画像があるときは、手順3、4を繰り返します。

4 設定を終了する

● 〈MENU〉ボタンを押すと、プリント指定画面に戻ります。
もう一度〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容をCFカードに保存して、メニュー画面に戻ります。

全画像指定

CFカードに記録されている全画像のプリント指定と解除ができます（RAW除く）。スタンダードタイプのプリント枚数は、すべて1画像1枚に固定されます。

1 [全画像]を選ぶ

- 〈◀▶〉を押して[**全画像**]を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 全画像指定メニューが表示されます。

2 [全画像を指定]を選ぶ

- 〈▲▼〉を押して[**全画像を指定**]を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ すべての画像が1枚ずつプリント指定され、プリント指定画面に戻ります。
- [**全指定の解除**]を選ぶと、すでにプリント指定されていた画像の指定がすべて解除されます。
- [**キャンセル**]を選ぶと、プリント指定画面に戻ります。

3 設定を終了する

- プリント指定画面で〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容をCFカードに保存して、メニュー画面に戻ります。

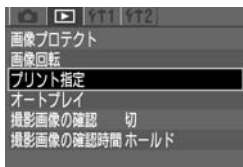
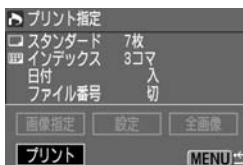
- 撮影日時の古い画像から順にプリントされます。
- 最大998画像まで指定できます。

DPOF指定画像のダイレクトプリント

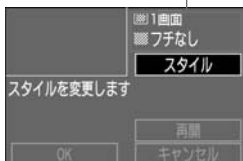
DPOFのプリント指定内容を、ダイレクトプリント対応のプリンター(別売)で簡単にプリントすることができます。

1 カメラとプリンターを接続する

(98)

2 [プリント指定]を選ぶ

- 〈▶〉タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して[**プリント指定**]を選び、〈SET〉を押します。

3 [プリント]を選ぶ

- 〈▲▼〉を押して[**プリント**]を選び、〈SET〉を押します。
- [**プリント**] は、カメラとプリンターを接続して、プリントできる状態になっていないと表示されません。

4 プリントスタイルを設定する

プリントスタイル設定状態

① 〈▲▼〉を押して[**スタイル**]を選び、〈SET〉を押すと[**スタイル**]設定画面が表示されます。

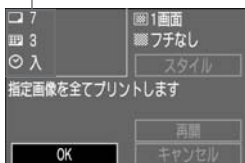
② 〈▲▼〉を押して項目を選び、〈SET〉を押すと内容が表示されます。

* 表示される項目は、プリントタイプやプリンターの機種によって変わります。設定できない項目は、灰色で表示されます。

③ 〈▲▼〉を押して内容を選び、〈SET〉を押すと選んだ内容が設定されます。

④ 〈MENU〉ボタンを押すとプリントスタイルの設定が完了します。

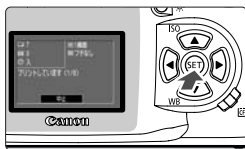
- BJプリンターは、必ずペーパー(用紙)サイズの設定を行ってください。

プリント指定内容

5 プリントする

- 画面左上でプリント指定内容を確認します。
- 〈▲▼〉を押して[OK]を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プリントが開始されます。
- プリントが終了すると、手順3の状態に戻ります。

「フチあり」にすると、プリンターによっては日付がフチにかかることがあります。日付の背後が明るい場合や、フチの場合、プリンターによっては日付が薄く印刷されます。

- [**プリントタイプ**]が[**インデックス**]の場合、用紙1枚にプリントされる画像の数は、用紙の種類によって異なります。
  クレジットカードサイズ :20、 Lサイズ :42、ポストカードサイズ :63
  BJプリンターでプリントしたときの画像の数については、BJプリンターの使用説明書でご確認ください。
- 日付、ファイル番号は、スタンダードは用紙の右下に、インデックスは用紙の中央下にプリントされます。

プリントを中止する

[中止]が表示されている間に〈SET〉を押す

➡ プリントが中止されます。

➡ 確認画面が表示されたときは、〈◀▶〉を押して[OK]を選び、〈SET〉を押します。

プリント中止について

カードフォトプリンター接続時

プリント枚数が1枚のときは、プリントを中止できません。2枚以上のときは、次のプリントから中止されます。

BJプリンター接続時

プリントが中止され、プリント中のペーパー(用紙)が排紙されます。

プリントを再開するとき

- プリントを中止したあとに、残りの画像をプリントするときは、プリント画面で、〈▲▼〉を押して[**再開**]を選び、〈SET〉を押します。
- 次のような場合は、プリントの再開はできません。
  - 再開する前に、プリント指定を変更した場合
  - 再開する前に、プリント指定した画像を削除した場合
  - プリントを中断したときに、CFカードの空き容量が少なかった場合

プリント中に問題が生じたとき

液晶モニターに、どのような問題が生じたかが表示されます。

- [**再開**]([**続行**])が表示されているときは、問題を解決したあと、[**再開**]([**続行**])を選び、〈SET〉を押します。〈SET〉を押したあと、「中止しますか?」と表示されたら、[**キャンセル**]を選んで〈SET〉を押すとプリントを再開します。なお、プリンターの種類によっては、自動的にプリントを再開します。
- [**中止**]しか表示されていないときは〈SET〉を押します。問題を解決したあと、初めからプリントしなおしてください。

8

資　料

カメラを快適に使っていただくために、この『資料』を設けました。撮影の参考になるカメラの機能情報、システムアクセサリーの紹介などを行います。

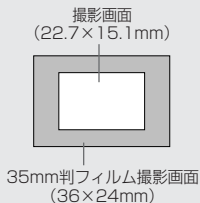
撮影機能の組み合わせ一覧

●：自動設定　○：選択可能　*AEロック操作時

モードダイヤル			簡単撮影ゾーン							応用撮影ゾーン				
										P	Tv	Av	M	A-DEP
記録画質	JPEG		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	RAW									○	○	○	○	○
ISO感度	自動		●	●	●	●	●	●	●					
	手動設定									○	○	○	○	○
ホワイトバランス	オートWB		●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
	プリセットWB、MWB、WB-BKT									○	○	○	○	○
現像パラメーター										○	○	○	○	○
AF	ワンショット			●	●	●		●						●
	AIサーボ						●							—
	AIフォーカス		●						●	●	●	●	●	—
	AFフレーム選択	自動	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	●
		任意								○	○	○	○	
露出	プログラムシフト									○				
	露出補正									○	○	○		○
	AEB									○	○	○	○	○
	AEロック									○	○	○	○	○
	被写界深度確認									○	○	○	○	○
測光方式	評価測光		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●
	部分測光									●*	●*	●*	●*	●*
	中央部重点平均測光												●	
ドライブ	1枚撮影		●		●	●		●	●	○	○	○	○	○
	連続撮影			●			●			○	○	○	○	○
内蔵ストロボ	自動発光		●	●		●		●						
	手動発光									○	○	○	○	○
	発光禁止				●		●		●	○	○	○	○	○
	赤目緩和		○	○		○		○		○	○	○	○	○
	FEロック									●*	●*	●*	●*	●*
カメラ設定初期化										●	●	●	●	●
撮像素子の清掃										●	●	●	●	●

AFモードとドライブモードの関係

ドライブモード	ワンショットAF	AIサーボAF	AIフォーカスAF
1枚撮影	ピント合わせが終わるまでは撮影できません。ピントが合うと同時にピントを固定します。評価測光の場合は、露出を固定します。（撮影前に露出を記憶）	被写体の動きに合わせてピント合わせを続けます。露出は撮影する瞬間に決まります。	被写体の状態によってワンショットAFからAIサーボAFに自動的に切り換わります。
連続撮影	上と同じ条件で連続撮影となります。（1秒間に約2.5枚、最大約4枚まで）	上と同じ条件で連続撮影となります。ピント合わせは連続撮影中も作動します。（1秒間に約2.5枚、最大約4枚まで）	

撮影画面は、35mm判カメラの撮影画面より小さいため、装着したレンズの有効撮影画角は、「表記焦点距離×約1.6倍」相当になります。

故障かな？とお考えになる前に

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。

電源

「バッテリーが充電できない」

- **専用のバッテリーを使用していますか？**

➡ バッテリーパックBP-511、BP-512を使用してください。

- **チャージャーに正しくセットしましたか？**

➡ バッテリーパックを正しくセットしてください。（16）

「電源スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない」

- **バッテリーパックが消耗していませんか？**

➡ バッテリーパックを充電してください。（16）

- **バッテリーを正しく入れましたか？**

➡ バッテリーを正しく入れてください。（18）

- **バッテリー室ふたが開いていませんか？**

➡ バッテリー室ふたをしっかりと閉じてください。（18）

- **CFカードスロットカバーが開いていませんか？**

➡ CFカード取り出しボタンが飛び出すまでしっかりと差し込み、CFカードスロットカバーをしっかりと閉じてください。（22）

「電源スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点滅する」

- **撮影後、すぐに電源スイッチを〈OFF〉にしても、CFカードへの画像記録を行うため、数秒間はアクセスランプが点滅します。**

➡ CFカードへの画像記録が終了すれば、アクセスランプは消え、自動的に電源が切れます。

「バッテリーの消耗が早い」

- **バッテリーパックが十分に充電されていますか？**

➡ 十分に充電してください。（16）

- **バッテリーパックの寿命ではありませんか？**

➡ 新しいバッテリーパックをお買い求めください。

「電源が勝手に切れる」

● オートパワーオフ機能が働いていませんか？

➡ もう一度電源スイッチを〈ON〉にするか、オートパワーオフ機能を［切］にしてください。（28）

「表示パネルに〈 〉のみが点滅している」

● バッテリーパックの容量が極端に少なくなっています。

➡ バッテリーパックを充電してください。（16）

撮影

「撮影・記録ができない」

● CFカードが正しくセットされていますか？

➡ CFカードを正しく入れてください。（22）

● CFカードがいっぱいになっていませんか？

➡ 新しいCFカードに入れ換えるか、不要な画像を消去してください。（22、93）

● バッテリーが消耗していませんか？

➡ バッテリーパックを充電してください。（16）

● ピントは合っていますか？（ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅していませんか？）

➡ もう一度シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせなおしてください。それでもピントが合わないときは、手動でピントを合わせてください。（24、62）

「液晶モニターの表示・画像が不鮮明になる」

● ゴミやほこりがついていませんか？

➡ 眼鏡ふきややわらかい布などでふいてください。

● 液晶が消耗していませんか？

➡ お客様相談窓口にご相談ください。

「画像がボケて写っている」

● レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉になっていませんか？
➡ レンズのフォーカスモードスイッチを〈**AF**〉にしてください。（21）

● シャッターボタンを押すときに手ブレを起こしていませんか？
➡ 手ブレを起こさないようにシャッターボタンを静かに押してください。（24、34）

「CFカードが使えない」

● 表示パネルに［Err　**］が表示されていませんか？
➡ ［Err CF］のときは、96ページを参照してください。
➡ ［Err 02］のときは、右ページを参照してください。

● キヤノン製以外のCFカードを使用していませんか？
➡ キヤノン製CFカードのご使用をおすすめします。（2、125）

「表示パネルに「C bC」が表示される」

● 日付／時計機能用電池が消耗していませんか？
➡ 新しい日付／時計機能用電池に交換してください。（31）

撮影画像の確認・操作

「画像を消去できない」

● 画像にプロテクトをかけていませんか？
➡ プロテクトを解除してください。（92）

「撮影年月日／時刻が正しく表示されない」

● 日付／時刻が正しく設定されていますか？
➡ 日付／時刻を正しく設定してください。（30）

「テレビに画像が表示されない」

● ビデオケーブルのプラグを根元まで差し込んでいますか？
➡ ビデオケーブルのプラグを、根元までしっかりと差し込んでください。（91）

● ビデオ出力方式（NTSC/PAL）が正しく設定されていますか？
➡ 接続する機器と同じビデオ出力方式に設定ください。（28）

エラーコード表示

カメラに異常が発生すると、表示パネルに「Err　xx」が表示されます。エラーコードに応じて、以下の対応を行ってください。
頻繁にこのエラーコードが表示されるときは、故障ですので「xx」の数値を控えて最寄りのお客様相談窓口にお持ちください。
また、撮影直後にこのエラーコードが表示されたときは、撮影されていない場合がありますので、〈▶〉ボタンを押して画像の確認をしてください。

エラーコード	対 応
Err 01	レンズの接点を清掃してください。（7）
Err 02	CFカードに問題があります。次のいずれかの対応を行ってください。 CFカードの抜き差しを行う。別のCFカードに交換する。CFカードをフォーマットする。
Err 04	CFカードの容量がいっぱいで、画像を記録することができませんでした。不要な画像を消去するか、十分な空き容量のあるCFカードに交換してください。
Err 05	内蔵ストロボの自動ポップアップを阻害しました。 電源スイッチ〈OFF〉→〈ON〉を行ってください。
Err 99	上記以外のエラーが発生しました。 バッテリーパックの抜き差しを行ってください。

主なアクセサリー(別売)

バッテリーパック　BP-511

強力なリチウムイオン二次電池パックです。フル充電で約400枚(常温･ストロボ50%使用)の撮影ができます。

ACアダプターキット　ACK-E2

家庭用電源キット(ACアダプター、DCカプラー、電源コード)です。AC100〜240Vに対応しています。

コンパクトパワーアダプター　CA-PS400

バッテリーパックBP-511、BP-512用の急速充電器です。1パックの充電所用時間は約90分、一度に2パックの取り付けができます。また、CA-PS400にDCカプラーDR-400(別売)を接続することもできます。電源はAC100〜240Vに対応しています。

バッテリーグリップ　BG-E1

バッテリーパックBP-511、BP-512を2本取り付け可能なバッテリーグリップです。縦位置用シャッターボタン、電子ダイヤル、AEロック／FEロックボタン、AFフレーム選択ボタン、露出補正／絞り数値設定ボタンが装備されています。

セミハードケース　EH-16L

カメラを保護するための専用ケースです。
カメラにEF-S18-55mm F3.5-5.6USMを付けたまま収納することができます。

視度補正レンズ　E

内蔵の視度調整機能との組み合わせでさらに調整範囲が広がる視度補正レンズEが10種類(－4dpt〜＋3dpt)用意されています。

クリップオンタイプストロボ

アクセサリーシューに取り付けて使用するストロボとして、EXシリーズスピードライトがあります。通常のAE撮影と同じ操作感覚で大光量のストロボ撮影、ハイスピードシンクロ(FP発光)、FEロック撮影などを行うことができます。

マクロストロボ

近接撮影用ストロボとして、EXシリーズマクロストロボがあります。片側発光から、光量比制御まで、高度なライティングを簡単に行うことができます。

RC-1

RC-5

リモートコントローラー　RC-1、RC-5

カメラから約5m離れて撮影できるリモコン送信機です。

リモートスイッチ　RS-60E3

超望遠撮影、マクロ撮影、長時間露光(バルブ)撮影などにおけるカメラブレ防止に有効なリモートスイッチです。コード長は60cm。スイッチはシャッターボタン半押し、全押しと同じ機能、およびレリーズロック機能を備えています。

CFカード

撮影した画像を記録するためのメモリーカードです。CFカードは、キヤノン製CFカードのご使用をおすすめします。

システムマップ

アイピースエクステンダー
EP-EX15
ラバーフレームEf
視度補正レンズE
アイカップEf
アングルファインダーC
セミハードケース
EH-16L
バッテリーグリップ
BG-E1
ST-E2
220EX
420EX
550EX
マクロリングライト
MR-14EX
マクロツインライト
MT-24EX
同梱品
ネックストラップ
EW-100DBⅡ
バッテリーパック
BP-511
バッテリーチャージャー
CB-5L
日付／時計機能用
CR2016
リチウム電池
EF-Sレンズ
リモートスイッチ
RS-60E3
ACアダプターキット
ACK-E2
コンパクト
パワーアダプター
CA-PS400
バッテリーパック
BP-512
ACアダプター
AC-E2
DCカプラー
DR-400
EFレンズ
リモート
コントローラー
RC-1
リモート
コントローラー
RC-5

CFカード
CFカードリーダー
PCカードアダプター
・EOS DIGITAL Solution Disk
・Adobe Photoshop Elements Disk
インターフェースケーブル
IFC-300PCU
ビデオケーブル
VC-100
PCカードスロット
USBポート
コンピューター
Windows XP
(Home Edition / Professional)
Windows 2000 Professional
Windows ME
Windows 98 Second Edition
Mac OS 9.0~9.2
Mac OS X
PictBridge対応プリンター
ダイレクトプリント対応 BJプリンター
カードフォトプリンター
テレビ/ビデオ

主な仕様

■型式

型式……………………ストロボ内蔵、デジタル一眼レフレックスAF･AEカメラ
記録媒体……………………CFカード(Type I、II 準拠)
撮像画面サイズ……………………22.7×15.1mm
使用レンズ……………………キヤノンEFレンズ群(EF-Sレンズ含む)
(有効撮影画角は、表記焦点距離の約1.6倍に相当)
レンズマウント……………………キヤノンEFマウント

■撮像素子

形式……………………高感度･高解像度大型CMOSセンサー
画素数……………………カメラ部有効画素:約630万画素(3088×2056)
総画素:約650万画素(3152×2068)
アスペクト比……………………3:2
カラーフィルター方式……………………RGB原色フィルター
ローパスフィルター……………………固定式、撮像素子前面に配置

■記録形式

記録フォーマット形式……………………DCF:JPEG(Adobe RGB設定時を除く)、およびRAW
記録画像形式……………………JPEG、RAW(12bit)
ファイルサイズ……………………(1)Large/Fine :約3.1MB(3072×2048画素)
(2)Large/Normal :約1.8MB(3072×2048画素)
(3)Middle/Fine :約1.8MB(2048×1360画素)
(4)Middle/Normal :約1.2MB(2048×1360画素)
(5)Small/Fine :約1.4MB(1536×1024画素)
(6)Small/Normal :約0.9MB(1536×1024画素)
(7)RAW :約7MB(3072×2048画素)
*ファイルサイズは、被写体条件、ISO感度などにより異なる
ファイル番号……………………通し番号、オートリセット
現像パラメーター……………………パラメーター1、2、Adobe RGBのほか、任意設定した現像パラメーター(4項目各5段階設定)を3セット登録可能
インターフェース……………………USB(標準／PTP選択可)
ビデオ出力(NTSC／PAL選択可)

■ホワイトバランス

種類……………………オート、太陽光、日陰、くもり、白熱電球、白色蛍光灯、ストロボ、マニュアル
オートホワイトバランス……………………撮像素子を用いたオートホワイトバランス
色温度補正……………………ホワイトバランスブラケティング:1段ステップ±3段

■ファインダー

方式..ペンタダハミラー使用、アイレベル式
視野率....................................上下／左右とも95%（対有効画素・視野率）
倍率..0.8倍（50mmレンズ・∞・−1dpt）
アイポイント..........................21mm
視度調整範囲..........................−3.0～+1.0dpt
フォーカシングスクリーン....固定式、全面マットスクリーン
ミラー....................................クイックリターン式全面ハーフミラー
（透過：反射=40：60、ミラー切れ：600mm F4までなし）
ファインダー情報..................AF情報（AFフレーム、合焦マーク）、露出情報（シャッター速度、絞り数値、マニュアル露出、AEロック、露出レベル）、ストロボ情報（充電完了、赤目緩和ランプ点灯、ハイスピードシンクロ、FEロック）、撮影可能枚数情報、CFカード情報
被写界深度確認......................絞り込みボタンによる

■オートフォーカス

方式..CMOSセンサーによるTTL-CT-SIR方式
（TTL二次結像位相差検出方式）
測距点....................................7点
測距輝度範囲..........................EV0.5～18（常温・ISO100相当）
フォーカスモード..................ワンショットAF、AIサーボAF、AIフォーカスAF、手動（MF）
AFフレーム選択......................自動選択、任意選択
AFフレーム選択表示.............ファインダー内スーパーインポーズと表示パネルによる
AF補助光................................ストロボ間欠発光方式
有効距離：中央部 約4m／周辺部 約3.5m

■露出制御

測光方式..................................35分割TTL開放測光
・評価測光（すべてのAFフレームに連動）
・部分測光（中央部・ファインダー画面の約9%）
・中央部重点平均測光（マニュアル露出時自動設定）
測光範囲..................................EV1～20（常温・50mm F1.4使用・ISO100相当）
露出制御方式..........................プログラムAE（全自動、ポートレート、風景、クローズアップ、スポーツ、夜景ポートレート、ストロボ発光禁止、プログラム）、シャッター優先AE、絞り優先AE、自動深度優先AE、マニュアル露出、E-TTLストロボAE
ISO感度..................................簡単撮影ゾーン：自動設定
応用撮影ゾーン：ISO100、200、400、800、1600相当

露出補正..................................AEB:1/3段ステップ±2段
手動:1/3段ステップ±2段(AEB併用可能)
AEロック.................................自動:ワンショットAF・評価測光時、合焦と同時にAEロック
手動:AEロックボタン押しによる

■シャッター

形式...電子制御式フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度.......................1/4000〜30秒(1/3段ステップ)、バルブ、
X=1/200秒
レリーズ方式...........................ソフトタッチ電磁レリーズ
セルフタイマー.......................10秒後撮影
リモコン..................................リモートスイッチRS-60E3
リモートコントローラーRC-5/RC-1対応

■内蔵ストロボ

形式...リトラクタブル式、E-TTL自動調光オートポップアップストロボ
ガイドナンバー.......................13(ISO100相当・m)
充電時間..................................約3秒
充電完了表示...........................ファインダー内ストロボ充電完了マーク点灯
照射角.....................................レンズ表記焦点距離18mm相当の画角に対応
調光方式..................................E-TTL自動調光(すべてのAFフレームに連動)

■外部ストロボ

EOS専用ストロボ.................スピードライトEXシリーズ使用時、E-TTL自動調光

■ドライブ関係

ドライブモード.......................1枚撮影、連続撮影、セルフタイマー/リモコン
連続撮影速度...........................約2.5コマ/秒(1/250秒以上)
連続撮影時の最大撮影可能枚数:4枚

■液晶モニター

形式...TFT式カラー液晶モニター
画面サイズ..............................1.8型
画素数.....................................約11.8万画素
視野率.....................................約100%(対有効画素・視野率)
輝度調整..................................5段階

■再生機能

画像表示形式...........................1枚、1枚(Info)、拡大(約1.5倍〜約10倍)、9枚インデックス、拡大ズーム、オートプレイ、および画像回転、ジャンプ
ハイライト表示.......................画像表示形式1枚、1枚(Info)のとき、画像情報のないハイライト部分を点滅表示

■記録画像のプロテクト／消去

プロテクト..............................1枚単位でプロテクト、解除
消去 ....1枚、またはカード内全画像の単位で消去
（プロテクト画像を除く）

■ダイレクトプリント機能

対応プリンター......................CPダイレクト、Bubble Jet Direct、および
PictBridge対応プリンター
プリント対応画像..................JPEG画像

■メニュー機能

メニュー内容..........................撮影系、再生系、セットアップ系
液晶モニター表示言語 ....12言語対応(英語、ドイツ語、フランス語、オランダ語、
デンマーク語、フィンランド語、イタリア語、ノルウェー語、スウェーデン語、スペイン語、中国語[簡体字]、
日本語)

■電源

使用電池.................................バッテリーパックBP-511/BP-512、1個使用
*DCカプラー使用によりAC駆動可能

[枚]

撮影可能枚数 ....

温度	撮影条件	
	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影
常温(+20℃)	600	400
低温(0℃)	450	350

*フル充電のバッテリーパックBP-511/BP-512使用時

バッテリーチェック ....自動
節電機能.................................あり、設定時間(1/2/4/8/15/30分)経過で電源OFF
日付／時計機能用電池 ....CR2016リチウム電池、1個使用

■大きさ・質量

大きさ ....142(幅)×99(高さ)×72.4(奥行)mm
質量 ....560g(本体のみ)

■動作環境

使用可能温度..........................0℃〜+40℃
使用可能湿度..........................85%以下

■バッテリーチャージャー CB-5L

対応バッテリー......................バッテリーパックBP-511/BP-512
バッテリー取り付け部 1箇所
電源コード長..........................約1.8m
充電時間.................................約90分
定格入力.................................AC100～240V(50/60Hz)
定格出力.................................DC8.4V
使用可能温度..........................0℃～+40℃
使用可能湿度..........................85%以下
大きさ ....91.0(幅)×32.3(高さ)×67.0(奥行)mm
質量 ....105g(電源コードなし)

■EF-S18-55mm F3.5-5.6 USM

画角 ....対角線：74° 20′ ～27° 50′
水平：64° 30′ ～23° 20′
垂直：45° 30′ ～15° 40′
構成枚数.................................9群11枚
最小絞り.................................F22-36
撮影倍率と画界......................18mm：0.1倍(248×161mm)
55mm：0.28倍(81×54mm)
最短撮影距離..........................0.28m
フィルター径..........................58mm
対応フード.............................EW-60C
最大径×長さ..........................69×66.2mm
質量 190g
対応ケース.............................LP814

- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

索　引

英数字

あ

か

さ

た

は

ま

や

ら

わ

Canon

キヤノン株式会社　canon.jp
キヤノン販売株式会社　〒108-8011　東京都港区港南2-16-6

お客様相談窓口

製品の取り扱い方法、修理サービスのご相談は、機種名をご確認のうえ、お買い上げの販売店または、別紙のサービス窓口にご相談ください。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、製造打ち切り後7年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店または、別紙のサービス窓口にお問い合わせください。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンカメラサイトのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。カメラに関する情報を掲載しているコンテンツ等もございますので、インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

キヤノン株式会社／キヤノン販売株式会社
canon.jp/camera

この使用説明書は、2003年8月に作成したものです。それ以降に発売された製品との組み合わせにつきましては、別紙のサービス窓口にお問い合わせください。

リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

CT1 - 5150 - 001

PRINTED IN JAPAN